# 御嵩町公共施設マネジメント報告書

平成 26 年 10 月 御嵩町総務部企画課

# もくじ

第1章	御嵩町の公共施設を取り巻く環境	
第1節	御嵩町の人口動態と地区別の傾向	
1-1	人口及び世帯数の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1-2	人口の将来推計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	人口将来推計 算出方法の解説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
第2節	本町の財政状況	
2-1	歳入の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
2-2	歳出の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
第3節	本町の公共施設の概況	
3-1	公共施設の分類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
3-2	分類別の設置状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
3-3	地域別の設置状況(施設数と延床面積)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
3-4	公共施設の地区年別整備状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
3-5	耐震化の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11
3-6	公共施設更新費用の将来推計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12
第2章	公共施設の用途別に見た現状と課題	
第1節	義務的施設	
UN I EN		
1-1	行政施設(本庁舎・北庁舎)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14
1-1	行政施設(本庁舎・北庁舎)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
1-1 1-2	行政施設 (本庁舎・北庁舎)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	18
1-1 1-2 <b>第2節</b>	行政施設(本庁舎・北庁舎)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	18
1-1 1-2 <b>第2節</b> 2-1	行政施設(本庁舎・北庁舎)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	18 21 31
1-1 1-2 <b>第2節</b> 2-1 2-2	行政施設 (本庁舎・北庁舎)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	18 21 31
1-1 1-2 第 <b>2</b> 節 2-1 2-2 2-3	行政施設(本庁舎・北庁舎)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	18 21 31 35
1-1 1-2 第2節 2-1 2-2 2-3 2-4	行政施設(本庁舎・北庁舎)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	18 21 31 35 41
1-1 1-2 第2節 2-1 2-2 2-3 2-4 2-5	行政施設(本庁舎・北庁舎)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	18 21 31 35 41 46
1-1 1-2 第 <b>2</b> 節 2-1 2-2 2-3 2-4 2-5 2-6	行政施設(本庁舎・北庁舎)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	18 21 31 35 41 46 50
1-1 1-2 第2節 2-1 2-2 2-3 2-4 2-5 2-6 2-7	行政施設(本庁舎・北庁舎)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	18 21 31 35 41 46 50
1-1 1-2 第2節 2-1 2-2 2-3 2-4 2-5 2-6 2-7	行政施設(本庁舎・北庁舎)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	18 21 31 35 41 46 50 57
1·1 1·2 第2節 2·1 2·2 2·3 2·4 2·5 2·6 2·7 第3節	行政施設(本庁舎・北庁舎)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	18 21 31 35 41 46 50 57

## 付録 参考資料

公共施設一覧

公共施設位置図

## 第1章 御嵩町の公共施設を取り巻く環境

## 第1節 御嵩町の人口動態と地区別の傾向

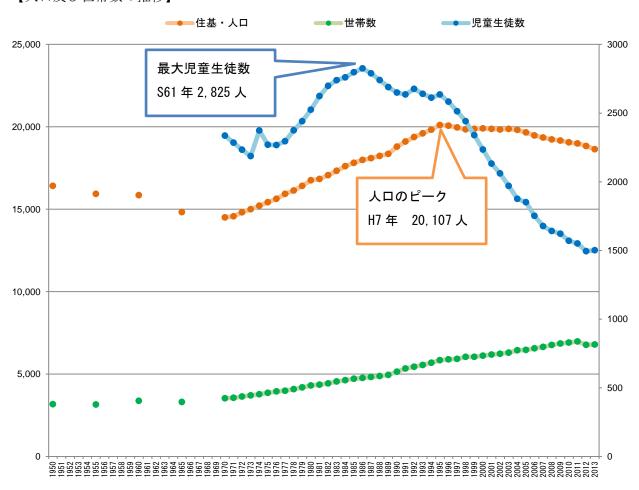
## 1-1 人口及び世帯数の推移

御嵩町の総人口は、高度経済成長の始まりとともに御嵩、中地区の宅地分譲開発などにより昭和 40 年第後半から人口が増加していましたが、平成 7 年(1995 年)の 20,107 人をピークに横這い、そして平成 16 年からは減少し続けています。

人口動態については、この 10 年間死亡が出生を上回っており、自然減少が続いています。また、 社会増減については、平成 15 年、20 年、21 年を除いて、転出超過となっています。世帯数については、全国傾向と同様、連続して増加しています。

児童生徒数 (小学生、中学生) については、昭和 61 年 (1986 年) の 2,825 人をピークに減少傾向を続けており、平成 25 年ではピーク時の約半数となる 1,502 人となっています。

## 【人口及び世帯数の推移】

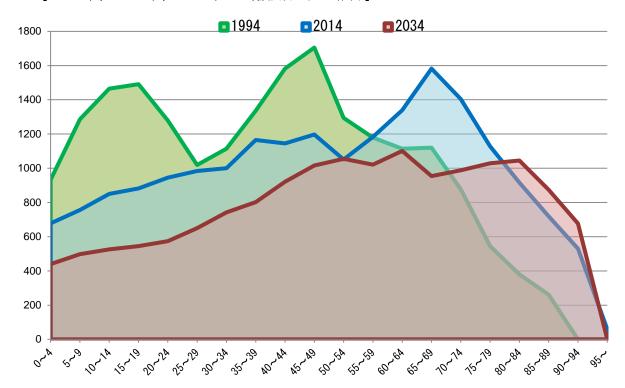


(出典:国勢調査、住民環境課、学校教育課データ)

#### 1-2 人口の将来予測推計

次のグラフでは、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口を用いて 5 階級別の人口推移を示しています。この推計によると、本町の平成 25 年(2013 年)の人口 18,834 人から、平成 46 年(2034 年)には 15,458 人になると見込まれており、今後 20 年間で約 3,000 人の減少があると推計されています。

【1994年、2014年、2034年の5階級別の人口推計】

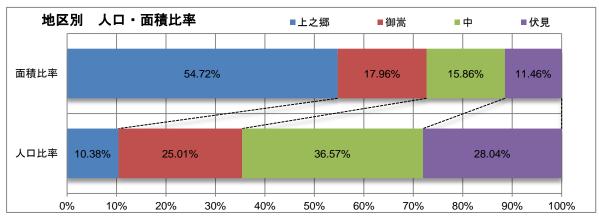


#### (1) 各地区の現況と地区別の将来推計

平成 24 年 10 月 1 日時点の各地区別の人口状況では、人口が最も多いのが中地区で 6,888 人となっており、以下、伏見、御嵩、上之郷となっています。

	人口	人口比率	面積	面積比率
	(人)		(K m³)	(K m³)
上之郷	1,955	10.4%	31.29	54.7%
御嵩	4,710	25.0%	10.27	18.0%
中	6,888	36.6%	9.07	15.9%
伏見	5,281	28.0%	6.55	11.5%
合計	18,834	100%	57.18	100%

各地区の面積との割合を見てみると、上之郷は御嵩町の約半分を占めている一方、人口比率では 10%となっています。中地区は面積では 16%となっていますが、人口比率では御嵩町人口全体の 36%を占めており、人口密度が最も高い地域となっていることがわかります。



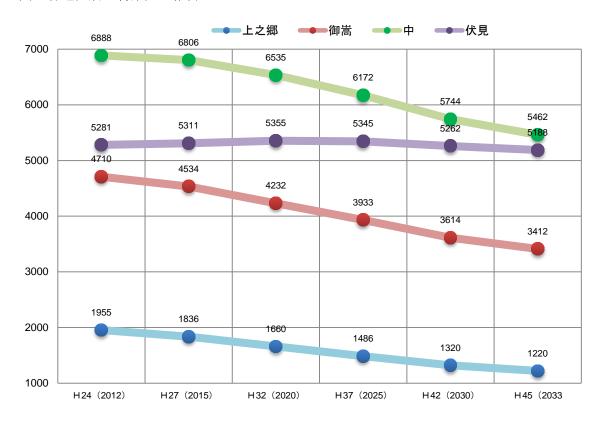
## (2) 各地区の将来予測

各地区別の将来推計を下記に示しています。上之郷、御嵩、中地区では人口の 30~40%の 人口減がみられるものの、伏見地区の特徴としては、ほぼ横ばいが続くと見込まれます。

なお、下記の地区別の人口将来推計は企画課にて推計した数値となっています。全体と各地区ごとで推計の補正係数が違うため、地区の合計と全体計は一致しません。

年代	H24(2012)	H27(2015)	H32(2020)	H37(2025)	H42(2030)
上之郷	1955	1837	1662	1488	1321
御嵩	4710	4536	4238	3944	3627
中	6888	6829	6686	6493	6249
伏見	5281	5304	5348	5344	5261
合計	18834	18487	17782	16936	15940

## 図 各地区別の将来人口推計



地区別人口将来推計は、地区別の将来推計を算出するために独自に行ったものです。 (国勢調査による推計や人口問題研究所の推計は、町全体のものでしか推計がないため)

## 〇御嵩町人口将来推計 算出方法の解説

#### 人口推計の範囲

- 人口推計の範囲は、本町に居住している全人口(外国人は含まず)とし、封鎖人口推計とした。 (1)
- 住民環境課住民係が毎月作成している住民基本台帳人口データを使用。 (2)

#### 人口推計の概要

- (1) 2013年(平成25年)から2033年(平成45年)の20年の人口を推計。
- (2) 年齢ごとに算出し、0歳~6歳、小中学生、年少人口(0歳~14歳)生産年齢(15~65歳)、高齢者 (65歳~)を区分できるものとした。

#### 推計の方法 3

(1) コーホート変化率法により推計している。

「コーホート変化率法」とは

各コーホートについて、過去における実績人口の動勢から「変化率」を求め、それに基づき将来人口を推 計する方法である。推計するものが比較的近い将来の人口であり、変化率の算出基礎となる近い過去に特殊 な人口変動がなく、また推計対象となる近い将来にも特殊な人口変動が予想されない場合は、比較的簡便な この方法を用いることができる。

※ここでいう「コーホート」とは、同じ年(又は同じ期間)に生まれた人々の集団のことを指す。例えば、 平成 21 年 4 月 2 日~22 年 4 月 1 日生まれのコーホートは、平成 24 年 4 月 1 日時点で満 2 歳、平成 28 年 4 月1日時点で満6歳となり、平成28年度の小学1年生となる人々の集団である。

変動率の算出

2008年から2012年の各年10月1日時点の住民基本台帳人口を年齢各歳、男女別、地区別に抽出し1年 後の変動率を算出。

② 0歳人口の推計

2008 年から 2012 年までの各年の母親の年齢階級別の出産数を調査。(岐阜県中濃保健所の統計情報「可 茂地域の公衆衛生」より)これにより、各年齢階級別の出生率を算出し、これを各年齢階級別の女性人口に 乗じて合計することで、出生数を予測。

但し、出産数と翌年の0歳人口のずれがある(出生から統計時点(各年1月1日)までに転居・死亡の可 能性があること。) ことから補正を行っている。また男女比については、2008~11年の0歳児の男女比とし ている。

#### 推計のフロー

|母親の年齢別出産数| ÷ ||2008~2012 女性の 5 歳階級別人口(15~44 歳)| = ||5 歳階級年齢別出生率 各年の女性の推計人口 × 5歳階級年齢別出生率 = 各年の推計出産数 2008~2011 の 0 歳児人口 ÷ 2008~11 の出生数合計 = 補正係数 各年の推計 0 歳児人口 2008~2011年の0歳児男女人口の比 各年の推計男女別 0 歳児人口

※100歳以上の人口推計

本町では99歳までの年齢別の人口と100歳以上の人口が示されている。

100 歳以上に関しては

(ある年の99歳人口+100歳以上人口)→(翌年の100歳以上人口)を変動率としている。

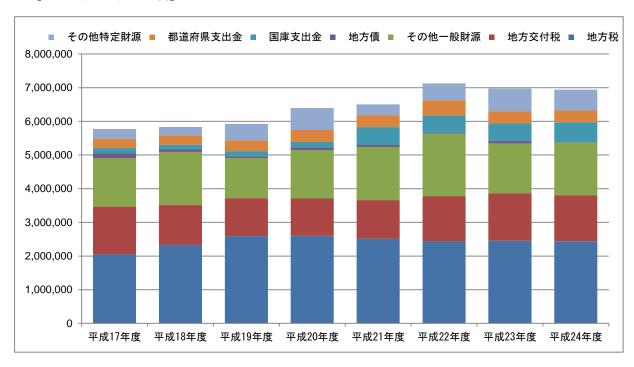
## 第2節 本町の財政状況

本節は、本町の財政の全体像を把握するために概況をまとめたものです。特に断わりのある場合を除き、平成 17 年度(2005 年度)から平成 24 年度(2012 年度)決算時点の歳入歳出決算書の数値を使用しています。

## 2-1 歳入の状況

本町の普通会計の歳入総額は、平成 24 年度で約 69 億円で過去 8 年間の平均では約 64 億円 となっています。(地方財政状況調査表「05 表 収入の状況」から引用)

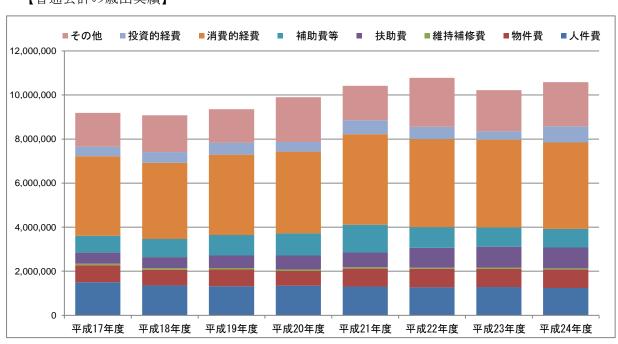
## 【普通会計の歳入実績】



## 2-2 歳出の状況

本町の普通会計の歳出総額は、平成 24 年度で約 67 億円で過去 8 年間の平均では約 61 億円 となっています。(各年度の決算資料から引用)

#### 【普通会計の歳出実績】



## 3-1 公共施設の分類

本町が保有する公共施設では、その分類から庁舎や学校教育施設、消防施設、福祉施設などにおける基礎的な行政サービスだけではなく、集会施設、社会教育施設、レクリエーション施設などにおいて様々なサービスを提供しています。今回、本町が保有する公共施設を以下のように分類しました。

大分類	中分類	具体例
	庁舎等	御嵩町役場、
行政系施設	消防施設	消防団詰所、防災倉庫
	その他行政系施設	希らり館
	高齢福祉施設	ふらっとハウス、あっと訪夢、老人憩いの家
┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃	保健施設	みたけ健康館
	その他社会福祉施設	みたけ会館
	障害福祉施設	あゆみ館
社会教育系施設	図書館	中山道みたけ館
位 五 教 月 术 他 政	博物館等	竹屋資料館
市民文化系施設	集会施設	各公民館、集会所 等
子育て支援施設	幼稚園・保育園・こども園	各保育園
· 于自 C 又 抜 心 政	幼児·児童施設	児童館、ぽっぽかん
産業系施設	産業系施設	農業担い手センター
公営住宅	公営住宅	町営住宅(板良、宿、白山、顔戸、高倉)
学校教育系施設	学校	小学校、中学校等の校舎、体育館
子仪教目术他政	その他教育施設	給食センター、古屋敷教員住宅
スポーツ・レクリエーション系施設	レクリエーション施設・観光施設	御嶽宿さんさん広場、わいわい館、御嵩地区ゲートボール
ハー・ファント フェントルビロス	レノノー ノコノルビロス 年ルノしルビロス	場、B&G 海洋センター等
その他	その他	ストックヤード、一般廃棄物埋め立て処理場、旧長楽荘
		旧楪の家

※本書では、<u>道路、橋梁等インフラ施設、上水道施設、公園、公園便所などを除く</u>いわゆる「ハコモノ」施設を対象(本体一般会計で負担すべき施設で繰出対象施設となっている施設は対象)としている。今後はインフラ施設等を含めた調査は必要になってくると思われるます。

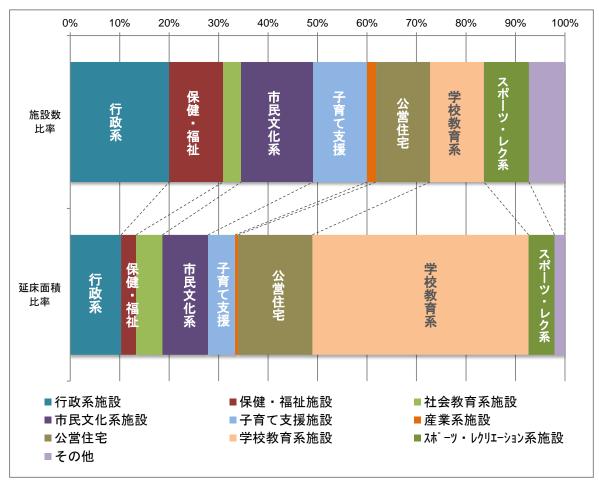
## 3-2 分類別の設置状況

本町で保有している公共施設は全体で 55 施設 (79 棟)、延床面積は 61,857.4 ㎡となっています。下記のグラフでは、本町の公共施設について分類別の施設数及び延床面積の比率について表しました。(延床面積は平成 25 年 3 月 31 日時点の数値を用いています。)

施設数のうち、「行政施設」は全体の 20.0%を占めていますが、一方面積では 10.3%となっています。また、学校教育施設について、施設数では 10.9%となっているが、面積全体では、約半数となる 43.7%を占めているものとなっています。

	施設数	施設数比率	延床面積	延床面積比率
行政系施設	11	20.0%	6,367.0 m²	10.3%
保健•福祉施設	6	10.9%	1,861.7 m²	3.0%
社会教育系施設	2	3.6%	3,305.1 m <sup>2</sup>	5.3%
市民文化系施設	8	14.5%	5,703.4 m²	9.2%
子育て支援施設	6	10.9%	3,372.1 m <sup>2</sup>	5.5%
産業系施設	1	1.8%	397.3 m²	0.6%
公営住宅	6	10.9%	9,280.9 m²	15.0%
学校教育系施設	6	10.9%	27,034.9 m²	43.7%
スポ゚ーツ・レクリエーション系施設	5	9.1%	3,229.2 m²	5.2%
その他	4	7.3%	1,305.6 m²	2.1%
合計	55	100.0%	61,857.4 m <sup>2</sup>	100.0%

## 図 分類別の施設数と延床面積の構成比率

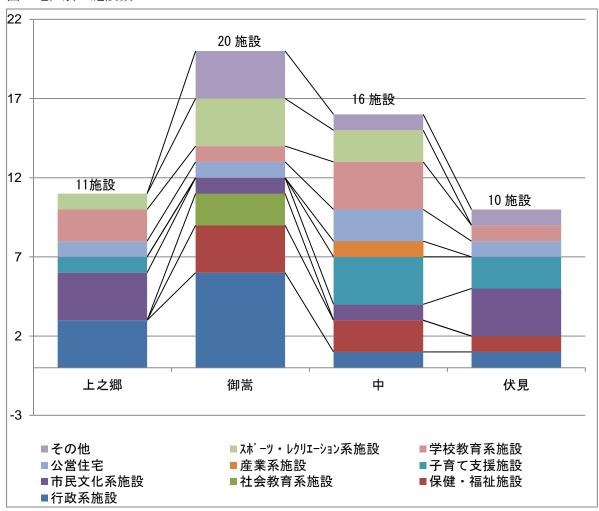


## 3-3 地域別の設置状況(施設数と延床面積)

本町の公共施設について、地域別の施設数及び延床面積の分布をみると、御嵩・中地区に 集中している様子です。

	上之郷	御嵩	中	伏見	合計
行政系施設	3	6	1	1	11
保健•福祉施設	0	3	2	1	6
社会教育系施設	0	2	0	0	2
市民文化系施設	3	1	1	3	8
子育て支援施設	1	0	3	2	6
産業系施設	0	0	1	0	1
公営住宅	1	1	3	1	6
学校教育系施設	2	1	2	1	6
スポーツ・レクリエーション系施設	1	2	2	0	5
その他		2	1	1	4
合計	11	18	16	10	55

## 図 地区別の施設数

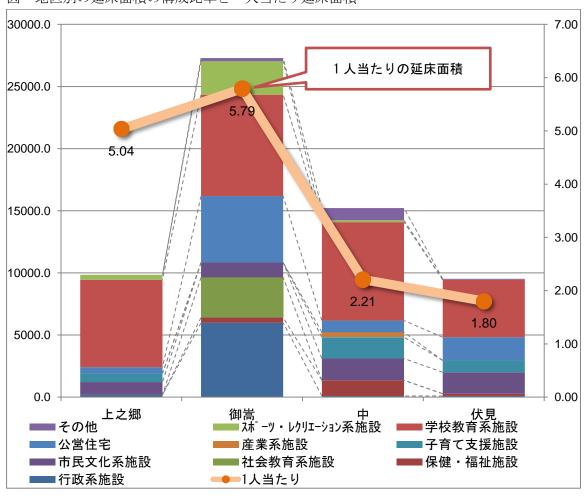


地区別の延床面積と人口一人あたりの面積を右記表に記しました。延床面積の多い順でみてみると、御嵩、中、伏見、上之郷の順となっていますが、一人当たりの延床面積でみると、御嵩、上之郷、中、伏見の順となっています。

地域により人口や地理的条件等の特徴が異なり、その事情を考慮する必要があるため、一概には比較できませんが、地区ごとの人口一人当たりの施設面積に着目すると、地域によって差が生じています。

	上之郷	御嵩	中	伏見
行政系施設	190.22	5982.84	98.54	95.43
保健・福祉施設	_	427.67	1249.45	184.61
社会教育系施設	_	3305.13	_	_
市民文化系施設	1027.5	1203.79	1751.9	1720.25
子育て支援施設	686.16	_	1722.21	963.74
産業系施設	_	_	397.32	_
公営住宅	502.96	5335.22	1641.46	1801.26
学校教育系施設	7051	8166.63	7187	4630.3
スポーツ・レクリエーション系施設	394.94	2680.11	154.19	_
その他	_	247.66	978.61	79.3
合計	9852.78	27349.05	15180.68	9474.89

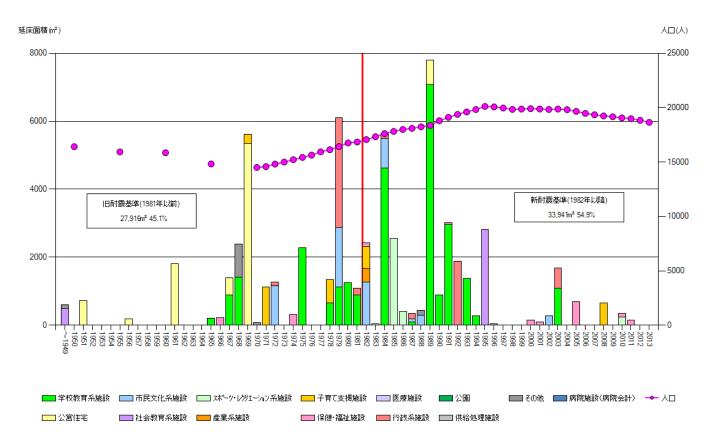
図 地区別の延床面積の構成比率と一人当たり延床面積



## 3-4 公共施設の築年別整備状況

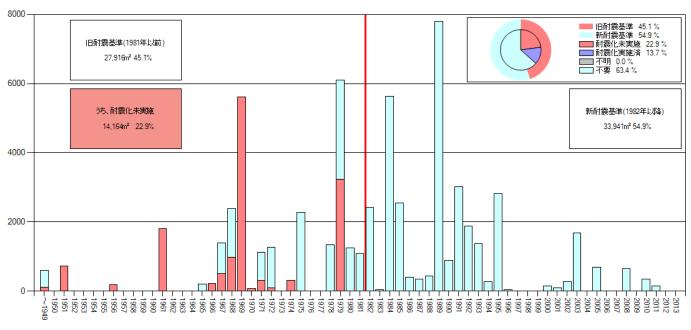
町が保有する建物約 61,857.4 ㎡のうち、旧耐震基準で建築され建物は、27,916 ㎡ (45.1%)、新耐震基準で建設された建物は、33,941 ㎡ (54.9%) となっています。 多くの施設が、人口増加が進んでいた昭和40年代~50年代にかけて建設されており、 建物の安全性の確保、大規模改修、建て替え等に今後莫大なコストがかかることが予測 されます。

建築年	延床面積	構成比率
旧耐震基準(昭和 56 年以前)	$27,916 \text{ m}^2$	45.1%
新耐震基準(昭和57年以降)	$33,941 \text{ m}^2$	54.9%
合計	$61,857 \text{ m}^2$	100.0%
人口一人当たり面積(18,834人)	3.28 r	㎡/人



## 3-5 耐震化の状況

昭和 56 年(1981 年)に、建築基準法の耐震基準が改定されていますが、改定後の「新耐震基準」に該当する建物が、延床面積において全体の 54.9%を占めています。いっぽう、旧耐震基準で建てられた建物のうち、耐震化未実施のものが 22.9%となっており、今後の対応を検討していくことが必要と考えられます。



■ 旧耐震基準 ■ 新耐震基準

## 3-6 公共施設更新費用の将来推計

公共施設の更新費用の推計は、総務省の提供している公共施設の更新費用推計ソフトを用いて推計したもので、建物を築後30年で大規模改修を行い、築後60年で建て替えると仮定しています。また大規模改修及び建て替えの1㎡あたりの工事単価を以下のように定め、建築年に応じ上記年数を経過する年に、面積に掛け合わせて計算する方法をとっています

内容をみると、2050年までの40年間で総額300億円、年平均7.5億円の更新費用を要するものとされ、平成25年度(2012年)から平成38年(2026年)頃までは大規模改修が中心に進み、その後建替えが中心となっていくものと推計されるものとなっています。

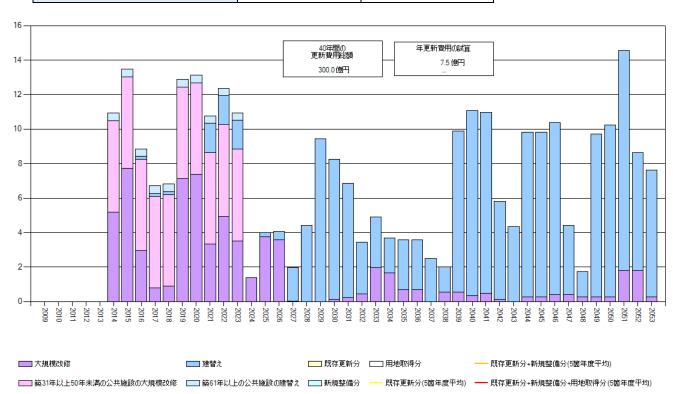
## ○更新費用算定のための基本条件設定

1 . La L#+=1 . <i>l.br</i>	実施年数	修繕年数
大規模改修	30年	2年

74 ++ ×	更新年数	建替え期間
建て替え	60年	3年

#### ○単価表

	大規模改修	建替え
行政系施設	25 万円/㎡	40 万円/㎡
保健·福祉施設	20 万円/㎡	36 万円/㎡
社会教育系施設	25 万円/㎡	40 万円/㎡
市民文化系施設	25 万円/㎡	40 万円/㎡
子育て支援施設	17 万円/㎡	33 万円/㎡
産業系施設	25 万円/㎡	40 万円/㎡
公営住宅	17 万円/㎡	28 万円/㎡
学校教育系施設	17 万円/㎡	33 万円/㎡
スポーツ・レクリエーション系施設	20 万円/㎡	40 万円/㎡
その他	20 万円/㎡	36 万円/㎡



## 第2章 公共施設の用途別に見た現状と課題

本町が管理していている平成 24 年 (2012 年) 3 月末時点の公有財産の現在高記載の数値と平成 25 年 9 月に行った各施設所管課への調査結果を使用して、用途別の現状と課題を整理しました。

ここでの分類は、基本的には第 1 章 3·1 の分類によっていますが、用途によって一部集約し以下のように分けて掲載しています。

また、車庫や倉庫、小規模な施設等は対象から外しています。

第1節	義務的施設
1-1	行政施設(本庁舎・北庁舎)
1-2	消防施設(消防団詰所)
第2節	準義務的施設
2-1	小学校・中学校(上之郷小学校、御嵩小学校、伏見小学校、上之郷中学校、向陽中学校)
2-2	その他の教育施設(給食センター、古屋敷住宅)
2-3	保育園(上之郷保育園、中保育園、伏見保育園)
2-4	子育て支援施設 (中児童館、伏見児童館、ぽっぽかん)
2-5	高齢者福祉施設(ふらっとハウス、あっと訪夢、老人憩いの家、みたけ健康館)
2-6	公民館(上之郷公民館、御嵩公民館、中公民館、伏見公民館)
2-7	町営住宅(宿、板良、若宮、白山、顔戸、高倉住宅)
第3節	その他一般施設
3-1	文化・観光・農業施設 (中山道みたけ館、竹屋資料館、御嶽宿わいわい館、農業担い手センター)
3-2	スポーツ・レクリエーション施設(B&G海洋センター、綱木グランド管理棟)
3-3	その他の供用施設(希らり館、あゆみ館、みたけ会館)
3-4	遊休公共施設(旧長楽荘、旧楪の家)

## 第1節 義務的施設

## 1-1 行政施設(本庁舎·北庁舎)

#### 1. 施設の概要

行政施設である本庁舎及び北庁舎は「地方自治法第4条」及び「御嵩町の事務所の位置を 定める条例」に基づいて設置され、行政、住民サービスを提供する拠点としての役割を果た しています。

本庁舎では本町の行政に関する業務全般を担っており、北庁舎では主に保健センター業務、 教育委員会業務を行っています。

#### ≪行政施設≫

施設名称	地区	所管課	延床面積	敷地面積	運営	設置根拠
本庁舎	御嵩	総務課	3,239.24 m²	10,459.26 m²	直営	・地方自治法第4条
北庁舎	御嵩	総務課	1,887.02 m²	8,595.00 m <sup>2</sup>	直営	・御嵩町の事務所の位置を定める条例

## 2. 施設の状況

本庁舎及び北庁舎の延床面積の合計は 5,126.26 ㎡で、両施設を併せた平均老朽化率は 68.05%となっています。

本庁舎は今後3年~4年で耐用年数を迎えることに加え、耐震改修、大規模改修も未実施であることから、早急に今後の方針を検討する必要があります。

北庁舎については、新耐震基準で整備されており、老朽化率 44.0%と比較的新しい施設となっています。

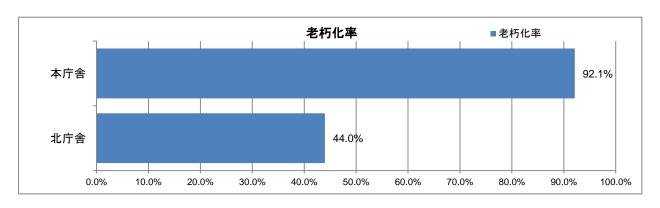
#### ≪建物の状況≫

施設名称	延床面積	建築年度	老朽化率	経過年数	主体構造	耐震診断	耐震化
本庁舎	3,239.24 m²	1979 年 (昭和 54 年)	92.1%	35 年	鉄骨造	実施済み	未実施
北庁舎	1,887.02 m²	1992 年 (平成 4 年)	44.0%	22 年	鉄骨 RC	不要	不要
合計	5,126.26 m²	_	68.05%		_	_	_

※老朽化率とは、耐用年数に対して経過した年数の割合を表現したものです。耐用年数 50 年の建物が 40 年経過している場合は、80%となります。 (40 年÷50 年=80%)

※各建物の耐用年数は、財務省令に基づく用途、構造別年数表に基づき設定しています。

※本庁舎:用途…庁舎、主体構造:鉄骨造、財務省に基づく耐用年数:38年 ※北庁舎:用途…庁舎、主体構造:鉄骨 RC、財務省に基づく耐用年数:50年



#### 3. 財務の状況

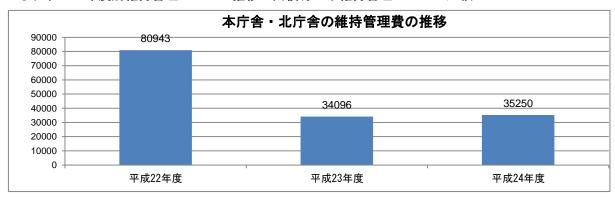
本庁舎及び北庁舎を併せた維持管理に関するコストは、直近 3 ヵ年の平均で年間 50,096 千円となっています。なお、庁舎の維持管理業務に従事している職員の人件費等は考慮していません。

年度別にみると平成 22 年は、冷暖空調機器の取換工事 (47,544 千円) があったため直近 3 カ年の中で最も高く 80,943 千円となっています。以降、平成 23 年度は 34,096 千円、平成 24 年度では 35,250 千円と推移しています。

《行政施設(本庁舎・北庁舎)の各年度の維持管理コストの推移》

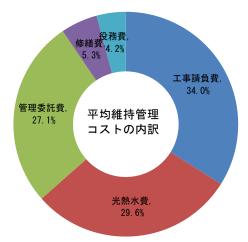
施設名称	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	3か年平均
本庁舎・北庁舎	80,943 千円/年	34,096 千円/年	35,250 千円/年	50,096 千円/年

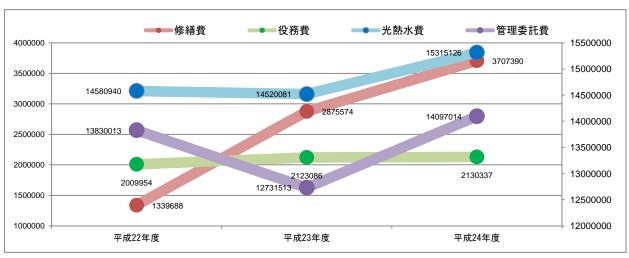
#### 〇グラフ: 年度別維持管理コストの推移と面積あたり維持管理コストの比較



庁舎の平均維持管理コストのうち、工事請負費が占める割合が34.0%(17,009千円/年)と最も高く、次いで光熱水費の割合が29.6%(14,805千円/年)、管理委託料の割合が27.1%(13,553千円/年)となっています。

また、各経費について、年々増加傾向が続いています。





## 4. 供給の状況

平成24年度の本庁舎の職員数は128人、北庁舎は28人となっています。

庁舎については、スペース利用率(職員一人当たりの延床面積)を指標としました。本庁舎と北庁舎を併せたスペース利用率では、 $20.8 \,\mathrm{m}^2/\mathrm{A}$ となっており、個別では本庁舎が  $25.3 \,\mathrm{m}^2/\mathrm{A}$ 、北庁舎が  $67.4 \,\mathrm{m}^2/\mathrm{A}$ となっています。(平成  $24 \,\mathrm{年度実績}$ )

≪本庁舎・北庁舎の利用状況≫

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	職員一人あたり面積
本庁舎	127 人	127 人	128 人	25.3 ㎡/人
北庁舎	29 人	29 人	28 人	67.4 ㎡/人
合計	156 人	156 人	156 人	20.8 ㎡/人

<sup>※</sup>正職員、特別職、嘱託職員、臨時職員等の4月1日時点の合計人数としています。

## 5. 施設の配置状況

庁舎は、サービス供給エリアを全町として下記のとおりの配置となっています。 ≪行政施設の所在状況≫



<sup>※</sup>B&G海洋センター、給食センター、中山道みたけ館等、出先機関は対象外としています。

<sup>※</sup>日本ビルジング協会連合会の調査(平成 23 年 4 月 1 日)によると、民間オフィスビルにおける一人当たりの延床面積の平均は  $24.4 \, \text{m}^2$ /人となっています。

## 6. 現状と課題

#### ≪施設≫

本庁舎の老朽化率が 92.1%となっていることに加え、耐震性能を満足していないとされていることから、早急な対応策を検討する必要があります。

#### ≪財務≫

光熱水費や修繕費が増加傾向にあります。今後施設の老朽化の進行と同時に修繕費等の維持管理費が増加することが考えられることから、管理に関して適切なマネジメントを行っていく必要があります。

## ≪その他≫

職員一人あたりの延床面積では、本庁舎が 25.3 m/人、北庁舎が 67.4 m/人となっています。今後、庁舎の改修、職員配置の変更などにより、新たに未利用スペースが発生する可能性があります。

また、将来の人口動向から、現在保有している庁舎の規模に余裕が生じることが想定されるため、庁舎の複合化・多機能化に取り組むとともに、規模の適正化を図っていく必要があると考えられます。

## 1-2 消防施設

## 1. 施設の概要

消防施設は「御嵩町消防団規則」に基づき、消防団ポンプ車の車庫として、また消防団員 の詰所として各地区に1か所、計4か所整備されています。

※長岡防災倉庫、常備車庫、第1分団倉庫、綱木自衛消防車庫については、用途が倉庫または維持管理等は自治会が行っているため、対象外としています。

≪消防施設一覧≫

施設名称	地区	所管課	延床面積	運営	設置根拠
消防第1分団詰所	上之郷	総務課	113.48 m²	直営	御嵩町消防団規則
消防第2分団詰所	御嵩	総務課	83.43 m²	直営	御嵩町消防団規則
消防第3分団詰所	中	総務課	98.54 m²	直営	御嵩町消防団規則
消防第 4 分団詰所	伏見	総務課	95.43 m²	直営	御嵩町消防団規則

## 2. 施設の状況

消防施設(4つの分団詰所)は、延床面積の合計が390.88 ㎡で、老朽化率の平均が90.75%となっています。主体構造は、すべての施設が鉄骨造りとなっています。第1分団、第2分団、第3分団の詰所は、昭和56年以降の新耐震基準で整備されていますが、第4分団詰所は昭和47年の旧耐震基準で整備されています。また耐震診断については未実施となっています。

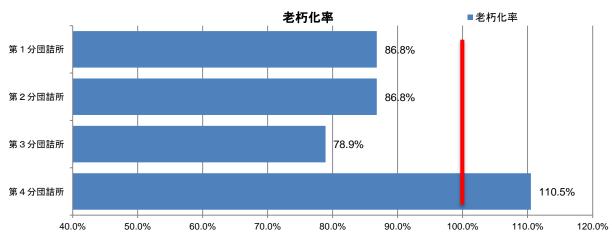
消防施設は、主に昭和 50 年代に整備されており、今後  $5\sim8$  年間で耐用年数を迎えることとなります。また第 4 分団詰所はすでに耐用年数を超過しています。

≪建物の状況≫

施設名称	延べ床面積	建築年度	老朽化率	経過年数	主体構造	耐震診断
消防第1分団詰所	113.48 m²	1981 年(昭和 53 年)	86.8%	33年	鉄骨造	不要
消防第2分団詰所	83.43 m²	1981 年(昭和 53 年)	86.8%	33年	鉄骨造	不要
消防第3分団詰所	98.54 m²	1984 年(昭和 59 年)	78.9%	30年	鉄骨造	不要
消防第 4 分団詰所	95.43 m²	1972 年(昭和 47 年)	110.5%	42年	鉄骨造	未実施

<sup>※</sup>老朽化率とは、耐用年数に対して経過した年数の割合を表現したものです。耐用年数 50 年の建物が 40 年経過している場合は、80%となります。 (40 年÷50 年=80%)

<sup>※</sup>消防団詰所:用途…詰所、主体構造:鉄骨造、財務省に基づく耐用年数:38年



<sup>※</sup>各建物の耐用年数は、財務省令に基づく用途、構造別年数表に基づき設定しています。

#### 3. 財務の状況

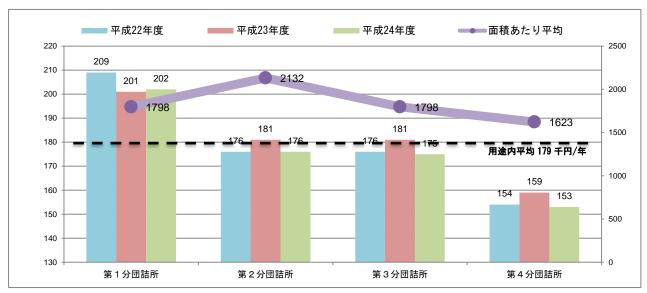
消防施設の維持管理コストは、以下のようになっています。直近 3 ヵ年の平均では、年間 179 千円の維持管理コストとなっており、各個別では第 1 分団詰所が最も高く年間 204 千円 の維持管理コストとなっています。

面積あたりのコストでは、2 分団詰所が最も高く 2,132 円/ ㎡となっており、最も低いのが第 4 分団詰所 1,623 円/ ㎡となっています。

≪消防施設の各年度の維持管理コストの推	移》	の推	1	コス	寺管理.	の維持	年度	り各分	施設(	≪消防抗
---------------------	----	----	---	----	------	-----	----	-----	-----	------

施設名称	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	3か年平均	
消防第1分団詰所	209 千円/年	201 千円/年	202 千円/年	204 千円/年	
消防第2分団詰所	176 千円/年	181 千円/年	176 千円/年	178 千円/年	
消防第3分団詰所	176 千円/年	181 千円/年	175 千円/年	177 千円/年	3 ヵ年全体平均
消防第 4 分団詰所	154 千円/年	159 千円/年	153 千円/年	155 千円/年	179 千円/年

#### 〇グラフ:各施設の年度別維持管理コストの推移と面積あたり維持管理コストの比較



## 4. 供給の状況

消防団の団員数は御嵩町消防団規則に基づき、第 1 分団が 40 人、第 2 分団から第 4 分団 は各 39 人となっています。

消防施設については、スペース利用率(団員一人当たりの延床面積)を指標としました。 スペース利用率では、第 1 分団詰所が 2.84 ㎡/人と最も高く、第 2 分団詰所が 2.14 ㎡/人と最も低くなっています。 (平均スペース利用率は 2.49 ㎡/人)

#### ≪消防施設の利用状況≫

施設名称	延べ床面積	団員数	スペース利用率	
消防第1分団詰所	113.48 m²	40 人	2.84 ㎡/人	
消防第2分団詰所	83.43 m²	39 人	2.14 ㎡/人	
消防第3分団詰所	98.54 m²	39 人	2.53 ㎡/人	平均スペース利用率
消防第 4 分団詰所	95.43 m²	39 人	2.45 m²/人	2.49 ㎡/人

## 5. 施設の配置状況

消防施設の配置状況は以下のとおりとなっています。

#### ≪消防施設の所在状況≫



## 6. 現状と課題

## ≪施設≫

消防施設の老朽化率は平均が 90.8%となっており、老朽化がかなり進行しています。第 4 分団詰所は昭和 47 年に建設されており、耐用年数を超過しているうえ、耐震化も未実施となっているため、耐震化・改修等の検討が短期的な課題と考えられます。その他の施設は、主に昭和 50 年代に建設されており、新耐震基準で整備されていますが、今後 5~8 年で一斉に耐用年数を迎えることから、更新時期の平準化に向けた検討が必要です。

#### ≪財務≫

消防施設は延床面積及び団員数に大きな差がないことから、各施設で大きな格差は生じていません。今後は、耐震化や改修、長寿命化に向けた財源確保等が課題となります。

#### ≪その他≫

消防施設は、消防団の活動拠点及び地域の災害対応拠点となりうるため、より一層の施設及び設備の充実が求められると同時に、減少傾向にある将来人口に応じた適切な規模・配置等を検討していくことも必要であると考えられます。今後は、多機能化、他施設との複合化等を検討するなど、より効率的な運営が求められます。

## 第2節 準義務的施設

## 2-1 小学校・中学校

#### 1. 施設の概要

町内の小学校及び中学校は、御嵩町小学校及び中学校の設置に関する条例に基づき小学校 教育と中学校教育を提供する場として、小学校 3 校、中学校 2 校(今回、可児市御嵩町中学 校組合立の共和中は対象外としています。)が設置されています。また各施設においては、「御 嵩町立小中学校体育施設開放規則」に基づき、屋内運動場、屋外運動場などの施設を町民向 けに開放しています。

## ≪施設一覧≫

施設名称	地区	所管課	延床面積	敷地面積	運営形態	学校開放対象
上之郷小学校	上之郷	学校教育課	3,525.00 m <sup>2</sup>	21,578.0 m <sup>2</sup>	直営	体育館 (屋内運動場)
御嵩小学校	中	学校教育課	8,166.63 m <sup>2</sup>	27,617.0 m <sup>2</sup>	直営	体育館 (屋内運動場)
伏見小学校	伏見	学校教育課	4,630.3 m²	17,450.0 m²	直営	体育館 (屋内運動場)
上之郷中学校	上之郷	学校教育課	3,526.0 m <sup>2</sup>	22,478.07 m <sup>2</sup>	直営	体育館 (屋内運動場)
向陽中学校	御嵩	学校教育課	6,260.0 m <sup>2</sup>	24,777.44 m²	直営	体育館 (屋内運動場)

※可児市御嵩町中学校組合で運営している共和中学校については、今回の対象外としています。

#### 2. 施設の状況

小学校及び中学校は、校舎、体育館(屋内運動場)、その他の施設から構成されており、建物棟数は、23棟、延床面積の合計は 26,107.93 ㎡(給食センター含めず)と、町内全施設の延床面積のうち 42.2%を占めています。老朽化率の平均は 75.1%となっており、校舎では伏見小南東校舎(97.9%)、体育館では上之郷小学校(102.9%)の老朽化が進んでいます。

※校舎相当部分のみの延床面積は、21,364 m²となります。

※給食センターを含めた学校教育系施設の延床面積は、27,034.93 ㎡となります。

#### ≪建物の状況≫

#### ○上之郷小学校

	建築年数	構造	耐用年数	経過年数	老朽化率
校舎東1	1975年	鉄筋 RC	47年	38年	80.9%
校舎東2	1975年	鉄筋 RC	47年	38年	80.9%
校舎西	1991年	鉄筋 RC	47年	22 年	46.8%
体育館	1978年	鉄骨	34年	35 年	102.9%
その他倉庫等	1975年	鉄骨	31年	38年	122.6%
				平均老朽化率	86.8%

#### ○御嵩小学校

	建築年数	構造	耐用年数	経過年数	老朽化率
校舎	1989年	鉄筋 RC	47年	24 年	51.1%
体育館	1979年	鉄骨	34年	34年	100.0%
放課後児童クラブ	1979年	鉄筋 RC	47年	34年	72.3%
				平均老朽化率	74.5%

#### ○伏見小学校

	建築年数	構造	耐用年数	経過年数	老朽化率
校舎南東	1967年	鉄筋 RC	47年	46年	97.9%
校舎南西	1968年	鉄筋 RC	47年	45 年	95.7%
校舎北	1980年	鉄筋 RC	47年	33年	70.2%
体育館	1981年	鉄骨	34年	32 年	94.1%
その他倉庫等	1965年	鉄骨	31年	48年	154.8%
放課後児童クラブ	1965年	鉄筋 RC	47年	48年	102.1%
				平均老朽化率	102.5%

#### ○上之郷中学校

	建築年数	構造	耐用年数	経過年数	老朽化率	
校舎北	1991年	鉄筋 RC	47年	22 年	46.8%	
校舎南	1991年	鉄筋 RC	47年	22 年	46.8%	
体育館	2003年	鉄骨	34年	10年	29.4%	
スクールバス車庫	1987年	鉄骨	31年	26年	83.9%	
その他倉庫等	1991年	鉄骨	31年	22 年	71.0%	
平均老朽化率						

#### ○向陽中学校

	建築年数	構造	耐用年数	経過年数	老朽化率
校舎	1984年	鉄筋 RC	47年	29 年	61.7%
校舎南東	1994年	鉄筋 RC	47年	19年	40.4%
体育館	1993年	鉄骨	34年	20年	58.8%
その他倉庫等	1993年	鉄骨	31年	20 年	64.5%
				平均老朽化率	56.4%

<sup>※</sup>老朽化率とは、耐用年数に対して経過した年数の割合を表現したものです。耐用年数 50 年の建物が 40 年経過している場合は、80%となります。 (40 年÷50 年=80%)

## 3. 財務の状況

小学校及び中学校別の維持管理コストの過去 3 年間の推移と面積当たり維持管理コストを 比較したグラフを下記に示しています。(グラフ①)

小学校全体の平均年間維持管理コストは 26,294 千円/年となっており、面積あたりの維持管理コストでは、平均が 4,725 円/㎡となっています。

中学校全体では、平均年間維持管理コストが 13,513 千円/年で、面積あたりの維持管理コストは、平均 2,697 円/㎡となっています。

<sup>※</sup>各建物の耐用年数は、財務省令に基づく用途、構造別年数表に基づき設定しています。

<sup>※</sup>耐用年数「校舎・体育館」: 鉄筋RC…47年、鉄骨造…34年 「その他・倉庫」: 鉄骨 31年

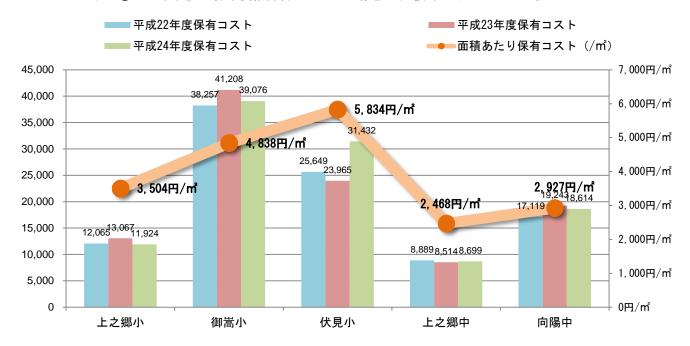
## ○小学校の年間維持管理コストと面積あたり維持管理コスト

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 25 年度	面積当たり維持管理コ スト (3ヵ年平均)
上之郷小	12,065 千円	13,067 千円	11,924 千円	3,504 円/m²
御嵩小	38,257 千円	41,208 千円	39,076 千円	4,838 円/m²
伏見小	25,649 千円	23,965 千円	31,432 千円	5,834 円/m²
平均		26,294 千円		5,165 円/m²

#### ○中学校の年間維持管理コストと面積あたり維持管理コスト

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 25 年度	面積当たり維持管理コ スト (3ヵ年平均)
上之郷中	8,889 千円	8,514 千円	8,699 千円	2,468 円/m²
向陽中	17,119 千円	19,243 千円	18,314 千円	2,927 円/m²
平 均		13,513 千円		2,697 円/m²

#### 〇グラフ①:小中学校の各年度維持管理コストの推移と面積あたりコストの比較



児童生徒一人当たりの総コストについては、小学校全体平均で年間 96,102 円/人となっており、なかでも上之郷小学校ではもっとも高い 133,737 円/人となっています。御嵩小学校では最も少ない 64,685 円/人となっており、最大 2 倍の差が生じています。

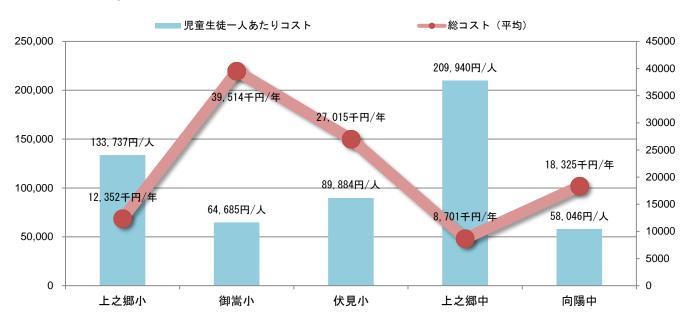
中学校の生徒一人当たり年間コストは平均で 133,993 円/人であり、上之郷中学校では、209,940 円/人、向陽中学校では 58,046 円/人と約 3.6 倍のコストの差が生じています。

## ○小学校別の児童一人当たりコスト

	上之郷小	御嵩小	伏見小	平均	
児童一人当たりコスト	133,737 円	64,685 円	89,884 円	96,102 円	

## ○中学校別の生徒一人あたりコスト

	上之郷中	向陽中	平均
生徒一人当たりコスト	209,940 円	58,046 円	133,993 円



#### 〇グラフ②:総コストと児童生徒一人あたり総コストの比較

### 4. 供給の状況

小学校の平成 24 年 (2012) 年 5 月 1 日時点の児童数は、92 人 (上之郷小) から 584 人 (御 嵩小) と各校で大きな差が生じています。

中学校でも同様の傾向で、38人(上之郷中)から314人(向陽中)と生徒数が約8.3倍の差となっています。

施設名称	児童生徒数			18343	** > ** ***	- ° - 11111-
	H22年度	H23 年度	H24 年度	増減率	普通教室数	スペース利用率
上之郷小学校	90 人	95 人	92 人	2.2%	6室	29.1 m²
御嵩小学校	635 人	616 人	584 人	-8.0%	19 室	12.1 m²
伏見小学校	294 人	297 人	309 人	5.1%	12 室	11.4 m²
上之郷中学校	46 人	41 人	38 人	-7.3%	3室	61.3 m²
向陽中学校	315 人	318 人	314 人	-0.3%	9室	15.6 m²

※増減率は、H24年度児童数と平成22年度児童数との比較で算出。

小中学校のスペース利用率は、「児童生徒一人当たりの校舎面積」を指標として比較を行いました。(校舎面積については、各学校の校舎に相当する建物の面積のみを採用しています。)

児童生徒一人あたりのスペース利用率は、御嵩小が 12.1 m、伏見小が 11.4 mとほぼ同様 の規模となっている一方で、上之郷小は児童一人あたり 29.1 mと約 2.5 倍の差があります。 中学校では上之郷中が 61.3 m、向陽中が 15.6 mとなっており、その差は約 4 倍と生徒一人 あたりの面積に大きな差が生じています。

(スペース利用率の算定:平成24年度の児童生徒数÷校舎相当延床面積としています。)

## 〇グラフ③:児童生徒数の推移と一人あたりのスペース利用率



### 5. 施設の配置状況と需給バランス

#### ○小学校

小学校のサービス供給エリアを各 3 校区、需要者を 7 歳から 12 歳と設定しました。7 歳から 12 歳人口の一人当たり供給状況を比較すると、上之郷小学校区が 2.03、御嵩小学校区が 0.84、伏見小学校区が 1.00 となっており、需給バランスで上之郷小学校区が平均の 2 倍となっています。



※需給バランス…各小学校の需給情報を『(施設の面積÷需要人口)÷同一用途の平均値』で指標化しました。 平均が1となり、供給面積が多いと1以上、少ないと1未満の数値となります。

## ≪サービス供給エリア別の需要者数と需給バランス≫

○対象年齢:7歳~12歳

○基準日		亚式	21	玍.	5	日	1	日時占
\	-	— IJX.	44		.,	$\neg$		D 64 727

	上之郷小校区	御嵩小校区	伏見小校区	合計
人口	92 人	584 人	309 人	985 人
地区	上之郷地区	御嵩・中地区	伏見地区	_
該当施設面積 (校舎)	2,677 m²	7,051 m²	4,419 m²	14,147 m²
同一用途の平均値	14,147÷985=14.36(同一用途の平均値)			
需給バランス	2.03	0.84	1.00	_

<sup>※</sup>需給バランス…各小学校の需給情報を『(施設の面積÷需要人口)÷同一用途の平均値』で指標化しました。 平均が1となり、供給面積が多いと1以上、少ないと1未満の数値となります。

また、需要人口( $7\sim12$  歳)の将来人口推計(※企画課による推計。別紙「人口将来推計 資料」)では、平成 24 (2012) 年度の 985 人から平成 42 年 (2030) 年度には 829 人と 15.8% の減少が見込まれます。

≪小学校の需要人口と需給バランスの将来推計≫

	平 24 年度		平成 3	2年度	平成 42 年度		
	人口	需給バランス	人口 (推計)	需給バランス	人口 (推計)	需給バランス	
上之郷小校区	92 人	2.03	60 人	3.00	34 人	5.29	
御嵩小校区	584 人	0.84	563 人	0.84	457 人	1.04	
伏見小校区	309 人	1.00	338 人	0.91	338 人	0.88	
合計	985 人	-	951 人	_	829 人	_	

#### ≪全体の需給バランスの算定≫

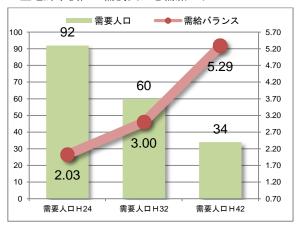
	平成 24 年	平成 32 年	平成 42 年		
施設の総延床面積 (A)	1,414.7 ㎡ (校舎相当部分)				
全体需要人口(B)	985 人	951 人	829 人		
(A) ÷ (B)	14.36	14.88	17.07		

#### ≪小学校の需要人口と平均値の将来推計グラフ≫

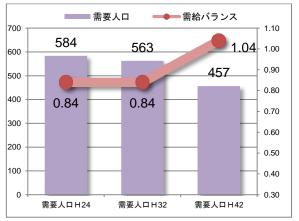


サービス供給エリア (各校区別) の将来推計から、御嵩小は 0.84 から 1.04 に若干の増加 が見込まれ、伏見小は 1.00 から 0.88 に減少することが見込まれます。また上之郷小の需給 バランスについては、その児童数の減が予想されることから 2.03 から 5.29 へと大きく増加 することが見込まれます。

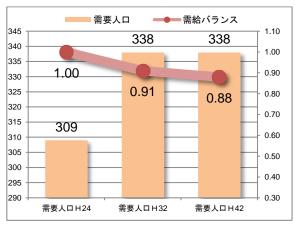
≪上之郷小校区の需要人口と需給バランス≫



≪御嵩小校区の需要人口と需給バランス≫



≪伏見小校区の需要人口と需給バランス≫

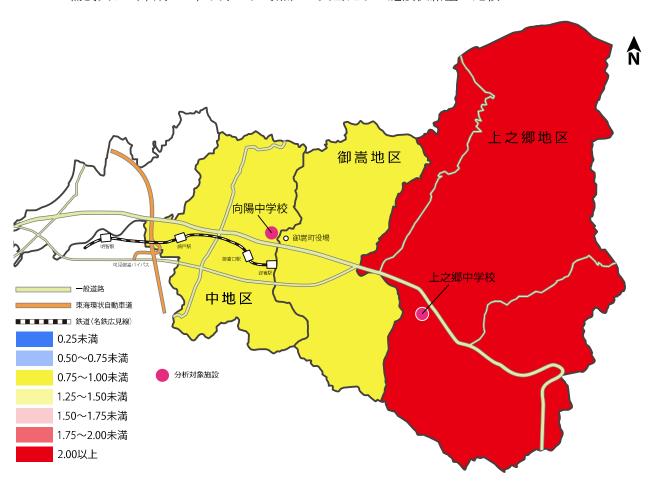


上記までの需給動向の推移から、全体的に需要人口に対して、現在の供給量がより余裕傾向になっていくことが想定されます。特に上之郷小校区については、よりいっそう供給量に余裕がでてくる見込みです。

## ○中学校

中学校のサービス供給エリアを各 2 校区、需要者を 13 歳から 15 歳と設定しました。13 歳から 15 歳人口の一人当たり供給状況を比較すると、上之郷中学校区が 2.99、向陽中学校区が 0.76 となっており、需給バランスで上之郷中学校区が向陽中学校区の約 3 倍となっています。

≪需要人口(平成24年5月1日時点)一人当たりの施設供給量の比較≫



≪サービス供給エリア別の需要者数と需給バランス≫

○対象年齢: 13 歳~15 歳 ○基準日: 平成 24 年 5 月 1 日時点

	上之郷中学校区	向陽中学校区	合計
人口	38 人	314 人	352 人
地区	上之郷地区	御嵩・中地区	
該当施設面積	2,328 m²	4,889 m²	7,214 m²
同一用途の平均値	7,214÷352=20.50(同一用途の平均値)		
需給バランス	2.99	0.76	_

※需給バランス…各小学校の需給情報を『(施設の面積÷需要人口)÷同一用途の平均値』で指標化しました。 平均が1となり、供給面積が多いと1以上、少ないと1未満の数値となります。

また、需要人口( $13\sim15$  歳)の将来人口推計(%企画課による推計。別紙「人口将来推計 資料」)では、平成 24 (2012) 年度の 352 人から平成 42 年 (2030) 年度には 278 人と 21.0% の減少が見込まれます。

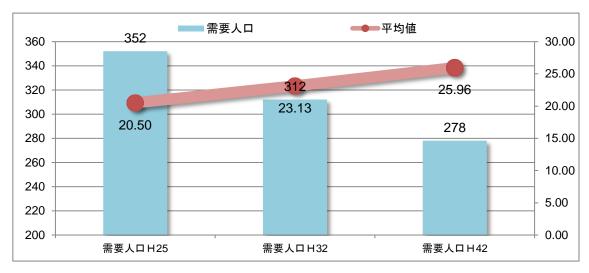
≪中学校の需要人口と需給バランスの将来推計≫

	平 24 年度		平成 3	2年度	平成 42 年度	
	人口	需給バランス	人口(推計)	需給バランス	人口(推計)	需給バランス
上之郷中学校区	38 人	2.99	37 人	2.72	20 人	5.03
向陽中学校区	314 人	0.76	275 人	0.77	258 人	0.82
合計	352 人	-	312 人		278 人	_

≪全体の需給バランスの算定≫

	平成 24 年	平成 32 年	平成 42 年		
施設の総延床面積(A)	7,217 m²				
全体需要人口(B)	352 人	312 人	278 人		
(A) ÷ (B)	20.50	23.13	25.96		

#### ≪中学校の需要人口と平均値の将来推計グラフ≫

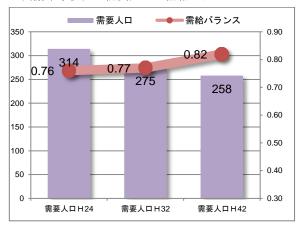


サービス供給エリア(各校区別)の将来推計から、向陽中学校区は 0.76 から 0.82 に若干の増加が見込まれ、上之郷中学校区は 2.99 から 5.03 へと大きく増加することが見込まれます。

≪上之郷中学校区の需要人口と需給バランス≫



≪向陽中学校区の需要人口と需給バランス≫



上記の需給動向の推移から、全体的に需要人口に対して、現在の供給量がより余裕傾向になっていくことが想定されます。特に上之郷中校区については、よりいっそう供給量に余裕がでてくる見込みです。

#### 6. 現状と課題

#### ≪施設≫

旧耐震基準の建物に対する耐震診断のすべての建物で実施されており、耐震改修等も実施されていますが、伏見小学校校舎、上之郷小学校体育館など老朽化が進んでいる施設もあり、 今後の大規模な改修についての計画を検討していく必要があります。

#### ≪財務≫

児童生徒一人当たりの総コストでは、小学校で約 2 倍の差、中学校では約 3.6 倍の差が生じているなど、一人当たりで比較した費用に格差が生じています。

## ≪供給·需給≫

全体的にみると、児童生徒数は減少傾向が見受けられ、今後も減少傾向は続くものと予想されます。スペース利用率(校舎の延床面積÷児童生徒数)をみると、一人あたりの校舎面積利用率が、小学校で最大 2.4 倍、中学校では最大 3.9 倍の差が生じていることから、平準化を図る取り組みも今後検討していく必要があります。

また、需要者である7歳から15歳人口の減少傾向を踏まえ、中長期的に小中学校の適正な規模と配置を検討していく必要があると考えられます。

## 2-2 その他教育施設

### 1. 施設の概要

その他教育施設は、御嵩町給食センターが御嵩町学校給食センター設置条例に基づいて、 古屋敷住宅は御嵩町立学校職員住宅管理規則に基づいて整備されています。

御嵩町給食センターでは、町内3つの小学校と3つの中学校に給食の調理、運搬などを担っています。古屋敷住宅では、御嵩町立小中学校及び可児市・御嵩町中学校組合立共和中学校に勤務する教職員の住宅として貸与を行っている施設です。

#### ≪その他供用施設一覧≫

施設名称	地区	所管課	延床面積	敷地面積	運営	設置根拠
給食センター	中	学校教育課	927.00 m²	2328.4 m²	一部民間	御嵩町学校給食センター設置条例
古屋敷住宅	中	学校教育課	731.64 m²	2501.58 m²	直営	御嵩町立学校職員住宅管理規則

### 2. 施設の状況

各施設の老朽化率は、約73~77%となっており老朽化が進んでいる状況といえます。両施設とも同じ年に建設されており、新耐震基準にて整備されています。

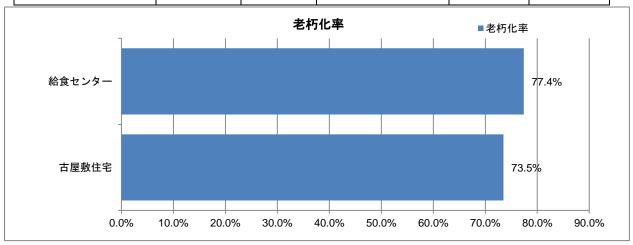
#### ≪建物の状況≫

施設名称	延べ床面積	建築年度	老朽化率	経過年数	主体構造	耐震診断
給食センター	927.00 m²	1990年	80.6%	24 年	鉄骨造	不要
古屋敷住宅	731.64 m²	1989年	73.5%	25 年	鉄骨造	不要

<sup>※</sup>老朽化率とは、耐用年数に対して経過した年数の割合を表現したものです。耐用年数 50年の建物が 40年経過している場合は、80.0%となります。 (40年÷50年=80%)

<sup>※</sup>各建物の耐用年数は、財務省令に基づく用途、構造別年数表に基づき設定しています。

施設名称	建物用途	主体構造	財務省に基づく耐用年数	経過年数	老朽化率
給食センター	給食室	鉄骨造	31 年	24 年	77.4%
古屋敷住宅	寮舎・宿舎	鉄骨造	34 年	25 年	73.5%



#### 3. 財務の状況

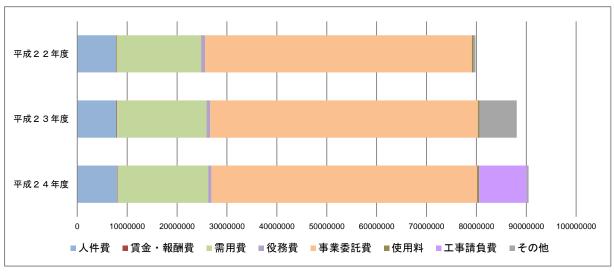
各施設の維持管理コストについて下記に示しています。なお、施設の減価償却費について は考慮していません。

給食センターの平均年間維持管理コストは、84,506 千円/年となっており、面積あたりの維持管理コストは、91,161 千円/㎡となっています。

支出の内訳としては、委託料が最も高く、ついで光熱水費などの需用費となっています。 平成24年度は、蒸気ボイラー取換工事と災害用ガス栓設置工事(計9,515千円)を行っているため、例年より支出が多くなっています。

施設名称	平均年間維持コスト	面積あたりコスト	1 食あたり平均コスト
給食センター	84,506 千円/年	91,161 円/㎡	261 円/食

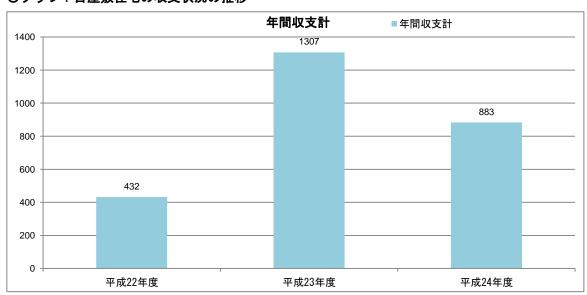
## ○グラフ:給食センターの支出額の推移と支出内訳



古屋敷住宅については維持管理に係るコストよりも貸付料収入が上回っています。なお、貸付料は月額 12,000 円としています。

施設名称	平均年間収支合計	面積あたり平均収支合計	1室あたり平均収支合計	
古屋敷住宅	+874 千円/年	+1,194 円/m²	+6,068 円/室	

## 〇グラフ: 古屋敷住宅の収支状況の推移



#### 4. 供給の状況

給食センターの直近3ヵ年の提供食数は、下表のとおりとなっています。平成22年度と平成24年度増減率では、0.95%であり横ばい傾向となっています。また年間提供可能食数と過去3ヵ年の平均提供実績食数から算出するものを稼働率とすると、90.0%となっています。

≪給食センターの提供及び稼働状況≫

施設名称	H22年度	H23年度	H24 年度	増減率	年間提供可能食数	稼働率
給食センター	319,378 食	329,776 食	322,427 食	0.95%	360,000 食	90.0%

## 〇グラフ:給食センターの維持管理コスト推移と給食の提供実績数の推移



古屋敷住宅の直近 3 ヵ年の入居数は、下表のとおりとなっています。平成 22 年度と平成 24 年度増減率では、35.1%でと増加していますが、対前年比では、▲15.3%の減少となっています。入居率では、51.4%(平成 22 年度)から 81.9%(平成 23 年度)、69.4%(平成 24 年度)となっており、各年度によって入居状況にばらつきがあります。

≪古屋敷住宅の入居及び入居状況≫

古屋敷住宅	H22年度	H23年度	H24 年度	備考		
年間提供可能室数 (A)	144 室	144 室	144 室	12 室×12 か月		
のべ入居室数 (B)	74 室	118 室	100 室	例:1 人が 10 か月借りていた場合=10 室		
対前年増減率	-	59.5%	<b>▲</b> 15.3 <b>%</b>	平成 22 年度と平成 24 年度の増減率: 35.1%		
入居率 (A) ÷ (B)	51.4%	81.9%	69.4%			

## 〇グラフ: 古屋敷住宅の維持管理収入の推移と入居率の推移



#### 5. 施設の配置状況

その他教育施設は、御嵩町全域にサービスを供給しており、施設の配置状況は以下のとおりとなっています。

## ≪その他教育施設の所在状況≫



## 6. 現状と課題

#### ≪施設≫

給食センター、古屋敷住宅ともに 1990 年に建設されており、老朽化率は  $73.5\% \sim 77.4\%$  となっています。今後 10 年間で両施設とも耐用年数を迎えることから、中長期的には改修などの検討が必要になってきます。

#### ≪財務≫

給食センターの維持管理コストは平成 24 年度実績で 84,506 千円、1 食あたりでは 275 円となっています。これに対し、給食費は小学生で1 食あたり 260 円、中学生では 290 円となっています。※給食費については、施設費や人件費などを除く食材費相当分を対象としていますので、単純な比較はできないものの、一つの参考として記載しています。

古屋敷住宅は、貸付料収入が維持管理に係るコストを上回っています。

## ≪供給·需給≫

給食センターの稼働率は、90%となっているものの、将来的には児童生徒数も減少が見込まれていることから、より効率的な運営が求められます。

古屋敷住宅でも、入居の需要は横這いまたは減少傾向にあります。中長期的には、その 適正な規模や有効活用について検討していく必要があります。

# 2-3 保育園

# 1. 施設の概要

保育園は、御嵩町保育所の設置及び管理に関する条例に基づき、保育サービスを提供する 場として3園が設置されています。

≪保育園一覧≫

施設名称	地区	所管課	延床面積	敷地面積	運営形態	備考
上之郷保育園	上之郷	福祉課	686.16 m²	3,168 m²	直営	
中保育園	中	福祉課	795.53 m²	2,944.32 m²	直営	駐車場一部私有地を借用
伏見保育園	伏見	福祉課	645.12 m²	3,873.28 m²	直営	

なお、上記保育園のほかに御嵩地区に私立保育園が一か所(御嵩保育園:学校法人荻須学園)あり、町の保育サービスを補完しています。

# 2. 施設の状況

保育園を構成している 3 施設の老朽化率の平均は 86.1%となっており、建築年は昭和 40 年後半~50 年代に集中しています。全体的に、老朽化が進んでおり、個々の建物では、老朽化率の最も高い上之郷保育園では耐震化及び大規模改修が実施されています。中保育園は老朽化率が約 90%となっており、今後数年で耐用年数を迎えることから、改築や大規模改修など今後の対応についての検討が必要になります。

≪建物の状況≫

施設名称	延べ床面積	建築年度	老朽化率	経過年数	主体構造	耐震診断	耐震性
上之郷保育園	686.16 m²	1978年	102.9%	35 年	鉄骨	実施済み	実施済み
中保育園	795.53 m²	1971年	89.4%	42 年	鉄筋RC	実施済み	未実施
伏見保育園	645.12 m²	1982 年	66.0%	31 年	鉄筋RC	不要	_

※老朽化率とは、耐用年数に対して経過した年数の割合を表現したものです。耐用年数 50年の建物が 40年経過している場合は、80%となります。  $(40年 \div 50年 = 80\%)$ 

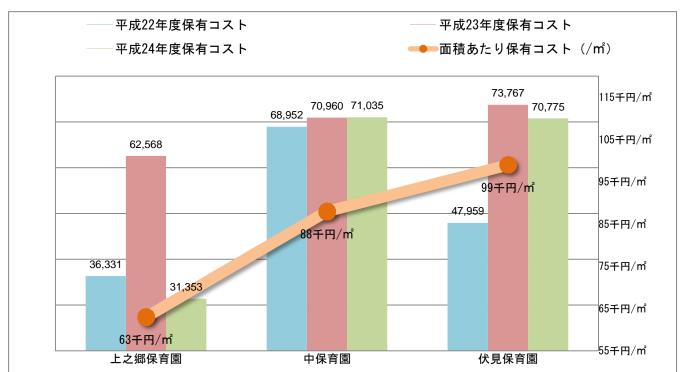
※各建物の耐用年数は、財務省令に基づく用途、構造別年数表に基づき設定しています。

※耐用年数「園舎」: 鉄筋RC…47年、鉄骨造…34年

# 3. 財務の状況

保育園の維持管理コストの過去3年間の推移と面積当たり維持管理コストを比較したグラフを下記に示しています。

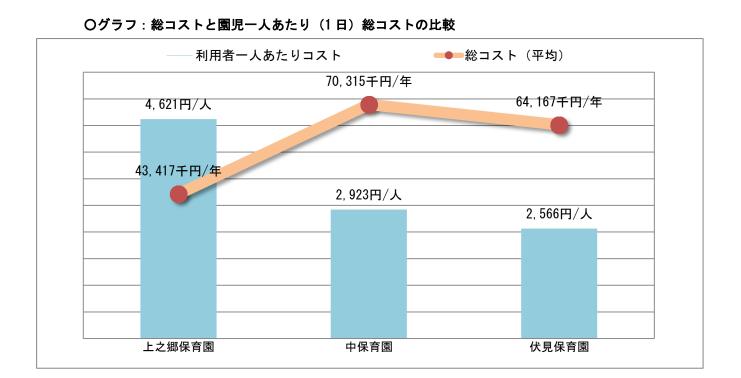
保育園全体の平均年間維持管理コストは保育園当たり 59,300 千円/年となっており、面積あたりの維持管理コストでは、平均が 83,710 円/㎡となっています。中保育園は面積が最も広いですが、面積あたりのコストでは2番目となっており、伏見保育園は 99,465 円/㎡と平均を大きく上回っています。



〇グラフ:各年度の維持管理コストの推移と面積あたりコストの比較

園児一人当たりの総コストについては、全体平均で1日あたりで3,370円/人となっており、上之郷保育園ではこの平均を大きく超える4,621円/人となっています。伏見保育園では最も少ない2,566円/人となっており、上之郷保育園と伏見保育園を比較すると、1.8倍の差が生じています。

※上之郷保育園は平成 23 年度に耐震工事を実施しているため、平均値が上がっています。平成 22 年度と平成 24 年度実績との平均で算出した場合、年間総コストの平均は 33,842 千円/年、園児一人あたり年間コストは 3,556 円/人となり、伏見保育園との差は 1.4 倍となります。



# 4. 供給の状況

保育園の直近(平成24年度)の年間の延べ園児数は、8784人から24,014人と各保育園の規模には大きな差があります。また、過去3年間の園児数の増減率を比較すると、1.0%減少の中保育園と14.3%減少の上之郷保育園と大きな差があります。

なお、保育園全体の定員充足率の平均は、89.7%となっています。

延べ園児数の推移では、中保育園と伏見保育園はほぼ横ばい推移となっていますが、上之郷保育園は減少傾向が続いています。

≪保育園の利用状況≫

施設名称		園児数		<b>本</b> 法本	<b>学</b> 昌太日家	定員
	H22年度	H23年度	H24年度	増減率	定員充足率	<b></b>
上之郷保育園	10,248 人	9,272 人	8,784 人	-14.3%	80.0%	45 人
中保育園	24,644 人	23,180 人	24,400 人	-1.0%	90.9%	110人
伏見保育園	25,681 人	25,580 人	24,014 人	-6.5%	89.5%	110人

<sup>※</sup>増減率は、H24年度園児数と平成22年度園児数との比較で算出。

# 〇グラフ:利用者数の推移と定員充足率



# 5. 施設の配置状況

保育園のサービス供給エリアを各4地区、需要者を0歳から6歳と設定しました。0歳か ら 6 歳人口の一人当たり供給状況では、中保育園は 0.70、伏見保育園は 0.69 とほぼ同等な 数値となっていますが、上之郷保育園は2.64となっており、需給バランスが平均の1.0を大 幅に超えています。

なお、御嵩地区にある私立保育園「御嵩保育園」では、1.35という需給バランスとなって います。

≪サービス供給エリア別の需要者数と需給バランス≫

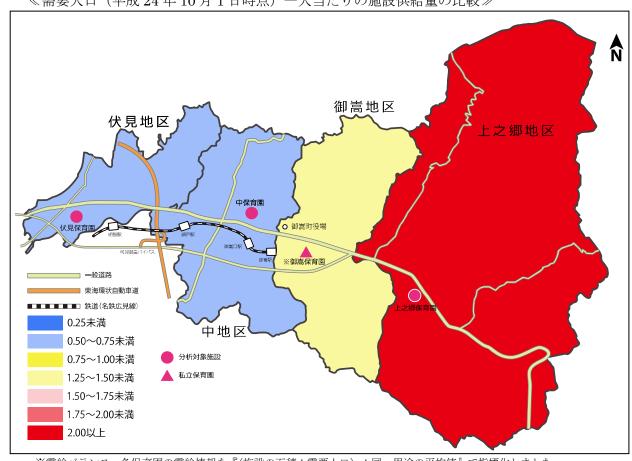
対象年齢:0歳~6歳

基準日:平成24年10月1日時点

	上之郷地区	御嵩地区	中地区	伏見地区	合計
人口	87 人	200 人	382 人	313 人	982 人
該当施設面積	686.16	802.7	795.53	645.12	2929.51
同一用途の平均値		$2929.51 \div 98$	2=2.98(同一用)	途の平均値)	
需給バランス	2.64	1.35	0.70	0.69	

※需給バランス…各保育園の需給情報を『(施設の面積:需要人口):同一用途の平均値』で指標化しました。 平均が1となり、供給面積が多いと1以上、少ないと1未満の数値となります。

# ≪需要人口(平成 24 年 10 月 1 日時点)一人当たりの施設供給量の比較≫



※需給バランス…各保育園の需給情報を『(施設の面積÷需要人口)÷同一用途の平均値』で指標化しました。 平均が1となり、供給面積が多いと1以上、少ないと1未満の数値となります。

また、需要人口 (0 歳 $\sim$ 6 歳) の将来人口推計 (※平成 25 年 10 月企画課による推計。別 紙「人口将来推計資料」)では、平成 24 (2012) 年度の 982 人から平成 42 年 (2030) 年度 には 658 人と 32.8%の減少が見込まれます。

≪保育園の需要人口と需給バランスの将来推計≫

	平 24	年度	平成 32 年	■度(推計)	平成 42 年度(推計)		
	人口	需給バランス	人口(推計)	需給バランス	人口(推計)	需給バランス	
上之郷	87 人	2.64	51 人	4.04	31 人	4.97	
御嵩	200 人	1.35	163 人	1.48	104 人	1.73	
中	382 人	0.70	366 人	0.65	305 人	0.59	
伏見	313 人	0.69	336 人	0.58	298 人	0.49	
合計	982 人	_	879 人※	_	658 人※	_	

※全体、各地区ごとに補正係数等が違うため、合計人数と各地区の積算人数は必ずしも一致しません。

#### ≪全体の需給バランスの算定≫

	平成 24 年	平成 32 年	平成 42 年
施設の総延床面積(A)		$2,929.51 \text{ m}^2$	
全体需要人口(B)	982 人	879 人	658 人
(A) ÷ (B)	2.98	3.33	4.45
平成 24 年を基準とすると	1.0	1.12	1.49

# ≪保育園の需要人口と需給バランスの将来推計グラフ≫



サービス供給エリア (各地区別) の将来推計から、中保育園 (中地区) は 0.70 から 0.59 に、伏見保育園 (伏見地区) は 0.69 から 0.49 に減少することが見込まれます。また上之郷保育園 (上之郷地区) の需給バランスについては、2.64 から 4.97 へと約 2 倍に増加することが見込まれます。

1.90

1.70

1.50

1.30

1.10

0.90

0.70

── 需給バランス

1.73

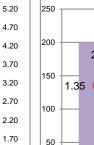
104

需要人口H42

#### ≪上之郷地区の需要人口と需給バランス≫

#### 需要人口 ── 需給バランス 100 5.20 87 90 4.70 4.97 80 4.20 70 3.70 4.04 60 51 3.20 50 2.70 40 31 2.20 2.64 30 1.70 20 1.20 10 0 0.70 需要人口H42 需要人口H24 需要人口H32

≪中地区の需要人口と需給バランス≫



0

≪伏見地区の需要人口と需給バランス≫

≪御嵩地区の需要人口と需給バランス≫

1.48

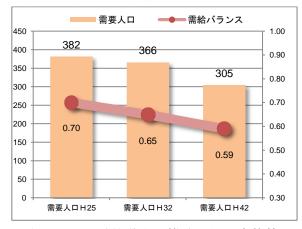
163

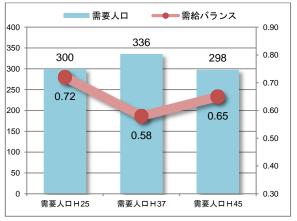
需要人口H32

需要人口

200

需要人口H24





上記までの需給動向の推移から、全体的に需要人口に対して、現在の供給量がより余裕傾向になっていくことが想定されます。特に上之郷地区(上之郷保育園)については、よりいっそう供給量に余裕がでてくる見込みです。

なお、伏見地区については、 $0\sim6$  歳人口の一時的な増加が見込まれていますが、将来的には減少する見込みとなっています。

#### 6. 現状と課題

# ≪施設≫

全ての施設が、昭和 40 年代~50 年代に整備されており、全体の老朽化率は 86.1%となっています。耐用年数が近づいており、すでに老朽化率が 100%を超えた上之郷保育園については、耐震化及び大規模改修が実施されています。他の施設についても、改築や耐震改修等の更新の是非や今後の対応について検討していく必要があります。

#### ≪財務≫

園児一人当たりの総コストでは、最大 1.8 倍の差が生じているなど、一人あたりで比較した供給量に格差が生じています。

#### 《供給·需給》

定員充足率については、施設全体で89.7%となっています。人口将来推計からも需要人口 が減少していくことが見込まれており、保育園のあり方や適正規模についての検討が、今後 必要になってきます。

# 2-4 子育て支援施設(児童館・ぽっぽかん)

# 1. 施設の概要

児童館は「御嵩町児童館の設置及び管理に関する条例」に基づいて、2 つの児童館が中地区と伏見地区に設置されています。また、子育て支援センターぽっぽかん(以下「ぽっぽかん」)は、「御嵩町子育て支援センターの設置及び管理に関する条例」に基づいて中地区に設置されています。

施設の運営については、児童館は御嵩町社会福祉協議会に指定管理者制度により管理運営を行っており、ぽっぽかんは直営にて運営を行っています。

≪子育て支援施設一覧≫
-------------

施設名称	地区	所管課	延床面積	敷地面積	運営形態	備考
中児童館	中	福祉課	276.80 m²	871.31 m²	指定管理	
伏見児童館	伏見	福祉課	318.62 m²	3163.33 m²	指定管理	
ぽっぽかん	中	福祉課	649.88 m²	3618.16	直営	

#### 2. 施設の状況

子育て支援施設の老朽化率は、平均 83.1%となっていますが、中児童館が 118.4%、伏見 児童館が 113.2%とすで耐用年数を過ぎており、児童館については老朽化がかなり進んでいるといえます。また平成 21 年に各児童館の耐震診断が行われていますが、どちらも耐震基準を満たしていないとされていることから、今後の対応について検討が必要となっています。 なお、伏見児童館については、改築工事の実施設計が済んでおり、平成 26 年度中竣工予定で改築工事が進められる予定となっています。

#### ≪建物の状況≫

施設名称	延べ床面積	建築年度	老朽化率	経過年数	主体構造	耐震診断	耐震化
中児童館	276.80 m²	1969年	118.4%	45 年	RCブロック造	実施済み	未実施 基準以下
伏見児童館	318.62 m²	1971年	113.2%	43年	RCブロック造	実施済み	未実施 基準以下
ぽっぽかん	649.88 m²	2008年	17.6%	6年	鉄骨	不要	_

<sup>※</sup>老朽化率とは、耐用年数に対して経過した年数の割合を表現したものです。耐用年数 50 年の建物が 40 年経過している場合は、80%となります。 (40 年÷50 年=80%)

#### 3. 財務の状況

子育て支援施設の維持管理コストの過去3年間の推移と面積当たり維持管理コストを比較 したグラフを下記に示しています。

児童館の平均維持管理コストは 5,828 千円/年となっており、面積あたりの維持管理コストでは、平均 19,614 円/㎡となっています。ぽっぽかんでは年間平均 31,707 千円/円、面積あたりの維持管理コストは 48,788 円/㎡となっており、児童館とぽっぽかんでは、年間維持管理コストでは約 5 倍、面積あたりの維持管理コストで約 2 倍の差があります。

<sup>※</sup>各建物の耐用年数は、財務省令に基づく用途、構造別年数表に基づき設定しています。

<sup>※</sup>耐用年数「集会所」: RC ブロック…38 年、鉄骨造…34 年

ぽっぽかん

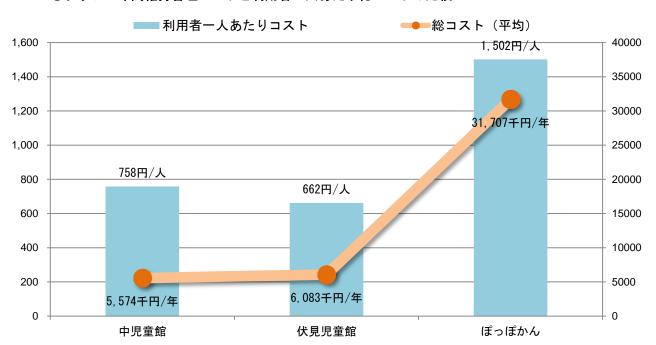
0千円/㎡

■ 平成22年度コスト **■■■** 平成23年度コスト **■■■** 平成24年度コスト **■●** 面積あたり保有コスト (/㎡) 35,000 140千円/㎡ 32,440 31,999 30,680 132千円/m<sup>\*</sup> 30,000 120千円/㎡ 25,000 100千円/㎡ 20,000 80千円/㎡ 15,000 60千円/㎡ 10,000 40千円/㎡ 5,857 5,8<mark>58</mark> 6,534 5,588 5,456 5,677 5,000 20千円/㎡ 21千円/㎡ 20千円/㎡

○グラフ:各年度の維持管理コストの推移と面積あたり維持管理コストの比較

利用者一人当たりのコストについては、中児童館は758 円/人、伏見児童館は662 円/人、ぽっぽかんは1,502 円/人となっています。

伏見児童館



〇グラフ:年間維持管理コストと利用者一人あたり総コストの比較

中児童館

# 4. 供給の状況

子育て支援施設の直近(平成 24 年度)の年間の延べ利用者数は、7,203 人から 24,100 人と各施設で大きな差があります。また、過去 3 年間の利用者数の増減率を比較すると、中児童館は0.3%と微増、伏見児童館は9.5%の増、ぽっぽかんは31.6%と大幅に増加しています。

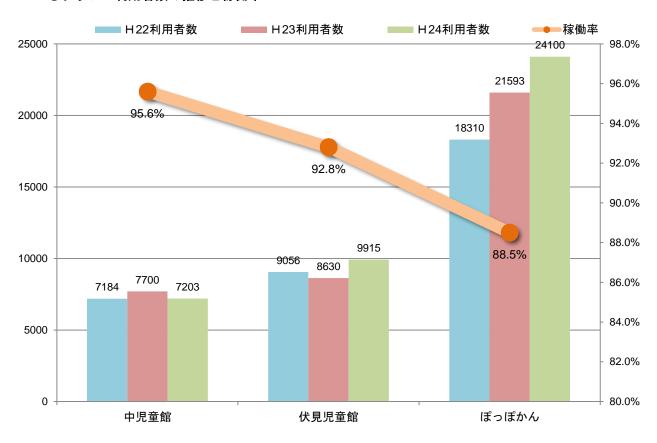
過去3年間の利用者の推移と稼働率(定員の算出が困難なため、過去3年間の最大利用者数を定員として稼働率を算出。)を比較しました。稼働率の平均は92.3%と高い数値となっており、特に中児童館では95.6%となっています。

≪子育て支援施設の利用状況≫

利用者数 施設名称		平均	最大	稼働率		
<b>旭</b> 放石外	H22 年度	H23年度	度 H24年度 利用者数 (A)		利用者数 (B)	(A) ÷ (B)
中児童館	7,184 人	7,700 人	7,203 人	7,362 人	7,700 人	95.6%
伏見児童館	9,056 人	8,630 人	9,915 人	9,200 人	9,915 人	92.8%
ぽっぽかん	18,310 人	21,593 人	24,100 人	21,334 人	24,100 人	88.5%

※稼働率は、3ヵ年の平均利用者数÷3ヵ年の最大利用者で算出。

# 〇グラフ:利用者数の推移と稼働率



# 5. 施設の配置状況と需要人口の将来推計

子育て支援施設のサービス供給エリアについては、御嵩町全体を供給エリアとしました。 児童館の対象需要者は0歳から18歳とし、ぽっぽかんについては需要者を0歳から6歳と 設定しました。また、需給バランスの算定については、平成24年度の需要者人口と対象施設 の延床面積から算出した数値を1.0として各推計年度の数値を算定しています。

児童館の需要人口 (0 歳~18 歳)の将来人口推計では、平成 24 (2012) 年の 3,058 人から平成 42 (2030) 年には 2,271 人と 25.7%の減少が見込まれます。

また、ぽっぽかんの需要人口 (0~6 歳) の将来人口推計では、平成 24 (2012) 年の 982 人から平成 42 (2030) 年には、658 人と 33.0%の減少が見込まれています。

# ≪子育て支援施設の所在状況≫



≪子育て支援施設の需要人口と需給バランスの将来推計≫

施設	平成 24 年		平成 32 年	三 (推計)	平成 42 年(推計)		
他設	人口	需給バランス	人口	需給バランス	人口	需給バランス	
児童館(中・伏見)	3,058 人	1.0	2,738 人	1.14	2,271 人	1.38	
ぽっぽかん	982 人	1.0	879 人	1.12	658 人	1.50	

※需給バランス…各施設の需給状況を『(施設の面積÷需要人口) ÷対象施設』で指標化。

平均が1.0となり、供給面積が多いと1.0以上、少ないと1.0未満の数値となります。

※児童館の将来需給バランス算式…595.42 ㎡÷各年の将来推計人口÷0.19

※ぽっぽかんの将来需給バランス算式…649.88÷各年の将来推計人口÷0.66

# ≪子育て支援施設の需要人口と需給バランスの将来推計グラフ≫



# 6. 現状と課題

#### ≪施設≫

平成 20 年 (2008 年) に建てられたぽっぽかんを除いた二つの児童館は、昭和 40 年代に建設されており、すでに建物の耐用年数を経過しています。平均老朽化率は 115.8%となっており、改築や耐震改修等の更新の是非や今後の対応について検討していく必要があります。なお、伏見児童館については、建替えが実施されることから地域の交流の拠点となるなど、今後の活用が期待されます。

#### ≪財務≫

児童館の年間平均維持管理コストは 5,828 千円となっており、ぽっぽかんでは年間平均 31,707 千円の維持管理コストとなっています。また利用者一人当たりのコストでは、児童館 が一人あたり 710 円、ぽっぽかんでは一人当たり 1,502 円となっています。

#### 《供給·需給》

利用者数の推移では、児童館は横ばい傾向、ぽっぽかんは増加傾向となっています。子育て支援施設全体では、92.3%と高い稼働率となっています。

人口の将来推計をみると需要人口が減少していくことが見込まれており、今後の児童館の あり方や適正規模、活用方法についての検討が必要になってきます。

# 2-5 高齢者福祉施設

# 1. 施設の概要

高齢者福祉施設は、以下の設置条例等に基づき4つの施設が設置され、貸室業務のほか、 介護予防事業や福祉相談、生きがい活動に関する事業を行っています。なお、あっと訪夢に ついては指定管理、老人憩いの家については管理委託を行っています。

※みたけ健康館について、一般成人も利用できる施設となっていますが、主に介護予防事業を行っているため、本書では高齢者福祉施設として位置づけました。

# ≪高齢者福祉施設の設置条例一覧≫

- ・御嵩町高齢者生きがい活動支援センターの設置及び管理に関する条例
- ・御嵩町老人憩いの家の設置及び管理に関する条例
- ・みたけ健康館の設置及び管理に関する条例

施設名称	構成	地区	所管課	延床面積	運営形態	備考
ふらっとハウス	1棟	御嵩	保険長寿課	107.84 m²	直営	直営にて運営
あっと訪夢	本館・別館	伏見	保険長寿課	184.61 m²	指定管理	訪夢藤の会に指定管理
老人憩いの家	本館・新館	中	保険長寿課	407.69 m²	直営	シルバー人材センターに管 理委託
みたけ健康館	1 棟	御嵩	保険長寿課	105.73 m²	直営	直営にて運営

<sup>※</sup>本館と別館がある施設などは、面積、利用者数等の数値は合算し、築年数等は古い建物を、開館日数は多い日数を基準としています。

# 2. 施設の状況

高齢者福祉施設を構成している 4 施設 (6 棟) の老朽化率の平均は 61.3%となっており、 古いものと新しいものが半数ずつとなっています。 4 施設 6 棟中、老人憩いの家以外の施設 は 1982 年以降に建設された新耐震基準の建物です。

老人憩いの家は、建物の耐用年数をすでに過ぎており、ふらっとハウスについても老朽化率が 91.2% と高い数値となっています。

			· -					
施設名称	延べ床面積	建築年度	老朽化率	耐用年数	経過年数	主体 構造	耐震 診断	耐震性
ふらっとハウス	107.84 m²	1982年	91.2%	34年	31年	鉄骨	不要	_
あっと訪夢 本館	144.18 m²	2000年	38.2%	34年	13年	鉄骨	不要	
あっと訪夢 別館	40.43 m²	1996年	70.8%	24 年	17年	木造	不要	_
老人憩いの家 本館	306.23 m²	1974年	114.7%	34 年	39年	鉄骨	実施済み	無
老人憩いの家 新館	101.46 m²	2001年	35.3%	34年	12年	鉄骨	不要	_
みたけ健康館	105.73 m²	2010-年	18.2%	22 年	4年	木造	不要	_

<sup>※</sup>老朽化率とは、耐用年数に対して経過した年数の割合を表現したものです。耐用年数 50 年の建物が 40 年経過している場合は、80%となります。 (40 年÷50 年=80%)

<sup>※</sup>各建物の耐用年数は、財務省令に基づく用途、構造別年数表に基づき設定しています。

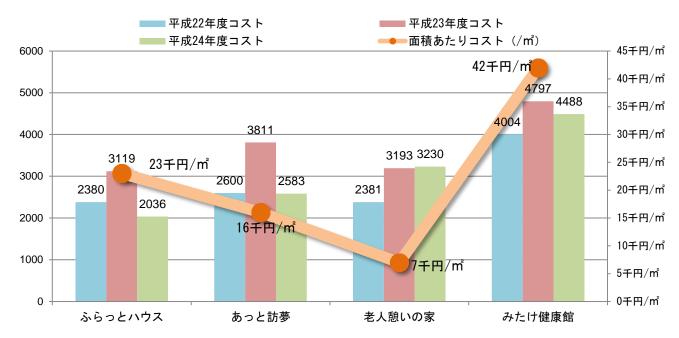
<sup>※</sup>生きがい支援施設系は、用途を「集会所」とし、みたけ健康館は「体育館」として算定しています。

# 3. 財務の状況

高齢者福祉施設の維持管理コストの過去3年間の推移と面積当たり維持管理コストを比較したグラフを下記に示しています。全体の年間平均維持管理コストは3,219千円/年となっています。

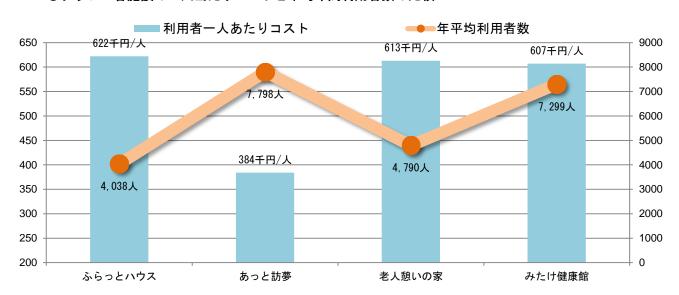
みたけ健康館は維持管理コスト、面積あたり維持管理コストともに高い数値となっています。 ふらっとハウスについては、維持管理コストは 4 施設中もっとも低い一方、面積あたりでは高い数値となっています。





いっぽう利用者一人当たりコストについては下記のとおりとなっています。全体平均で利用者一人当たり年間 556 千円となっており、個別では、あっと訪夢がもっとも低く利用者一人当たり 384 千円となっています。それ以外の施設については、ほぼ同程度となっていますが、年間の平均利用者数と合わせて比べると、ふらっとハウス、老人憩いの家は利用者数が約 4,000 人~4,700 人となっている一方、利用者一人あたりのコストが高くなっている傾向があります。

〇グラフ: 各施設の一人当たりコストと平均年間利用者数の比較



# 4. 供給の状況

高齢者福祉施設の直近(平成 24 年度)の利用者数は、3,462 人から 8,369 人と各施設の利用者数は大きく異なっています。

高齢者福祉施設についての稼働率を求めるにあたり、施設利用定員が未設定であることから、過去3年間の利用者数の最大値を分母として、過去3年間の平均利用者数を分子として平均稼働率を設定しました。そのことから、稼働率はどの施設も80%以上と高い数値になっています。

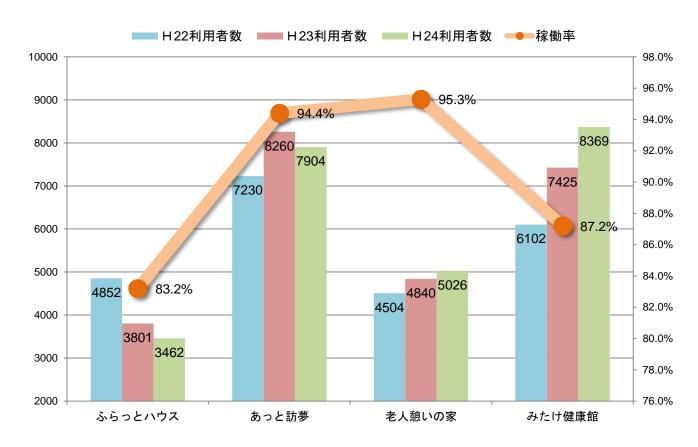
また 1 日あたりの利用者数(平成 24 年度実績)については、ふらっとハウスが 14.1 人、あっと訪夢が 32.4 人、みたけ健康館が 24.3 人、そして老人憩いの家が最も多く 32.4 人となっています。

施設名称	利用者数			増減率	1日あたり	3か年の	稼働率
<b>他</b> 放石	H22年度	H23年度	H24 年度	垣似竿	利用者数	最大値	1外1到干
ふらっとハウス	4,852 人	3,801 人	3,462 人	-28.6%	14.1 人/日	4,852 人	83.2%
あっと訪夢 (本館・別館)	7,230 人	8,260 人	7,904 人	9.3%	32.4 人/日	8,260 人	94.4%
老人憩いの家 (本館・新館)	4,504 人	4,840 人	5,026 人	11.6%	27.3 人/日	5,026 人	95.3%
みたけ健康館	6,102 人	7,425 人	8,369 人	37.2%	24.3 人/日	8,369 人	87.2%

※増減率は、H24年度利用者数と平成22年度利用者数との比較で算出。

※1日あたり利用者数は直近平成24年度実績で算出。別棟がある場合は、合算しています。

#### 〇グラフ: 利用者数の推移と施設稼働率



# 5. 施設の配置状況

高齢者福祉施設は、ふらっとハウスとみたけ健康館が御嵩地区に、老人憩いの家が中地区 に、あっと訪夢が伏見地区に配置されています。



# 6. 現状と課題

#### ≪施設≫

4 施設 6 棟のうち二つの建物が昭和期に建てられており、その二つの施設の老朽化率は 90%以上となっています。耐震性が低く、すでに耐用年数を過ぎている建物(老人憩いの家) については、更新の是非や今後の対応策について検討していく必要があります。

#### ≪財務≫

利用者一人当たりのコストについては、指定管理者制度を利用している「あっと訪夢」が、 直営で運営している「ふらっとハウス」、「老人憩いの家」、「みたけ健康館」などと比べ半分 ほどのコストで運営を実施しています。今後は利用状況に応じたコストの平準化のための方 策を検討していく必要があります。

#### ≪供給·需給≫

施設全体の稼働率は平均で80%を超えているものの、その利用者数についてはばらつきがあります。特に老人憩いの家が実施している賃室については、近隣他施設(中公民館等)でも実施しており、今後は賃室機能の統合化も検討していくことが考えられます。

#### 2-6 公民館

# 1. 施設の概要

公民館は、御嵩町公民館の設置及び管理に関する条例に基づき設置され、公民館事業、図書室、調理室、各種教室など多彩な事業を実施しています。管理運営については、すべての公民館が直営にて行われています。

#### ≪施設一覧≫

施設名称	地区	所管課	地区別人口 (H26.1.1)	延床面積	敷地面積	一人あたり 延床面積
上之郷公民館	上之郷	生涯学習課	1,907 人	873.47 m²	1610.0 m²	0.46 ㎡/人
御嵩公民館	御嵩	生涯学習課	4,798 人	1,203.79 m²	2,723.0 m <sup>2</sup>	0.25 ㎡/人
中公民館	中	生涯学習課	6,984 人	1,751.90 m²	3,535.58 m²	2.02 ㎡/人
伏見公民館	伏見	生涯学習課	5,308 人	1,163.38 m²	2,006.6 m <sup>2</sup>	1.72 ㎡/人

#### 2. 施設の状況

公民館全体の老朽化率は、平均 73.0%となっており、多くは鉄筋コンクリートで建設されています。旧耐震基準で建てられた中公民館と伏見公民館については、どちらも耐震診断を実施しています。耐震化については、伏見公民館は実施済み、中公民館は診断の結果、耐震性能があるものとして耐震化は不要となっています。

# ≪建物の状況≫

施設名称	建築年度	老朽化率	経過年数	主体構造	耐震診断	耐震化
上之郷公民館	1984年	60.0%	30年	鉄筋RC	不要	_
御嵩公民館	1982 年	78.0%	32 年	鉄骨	不要	_
中公民館	1979 年	70.0%	35 年	鉄筋RC	実施済み	不要 (耐震性あり)
伏見公民館	1972年	84.0%	42 年	鉄筋RC	実施済み	実施済み

<sup>※</sup>老朽化率とは、耐用年数に対して経過した年数の割合を表現したものです。耐用年数 50 年の建物が 40 年経過している場合は、80%となります。 (40 年÷50 年=50%)

# 3. 財務の状況

公民館全体の平均年間維持管理コストは1施設当たり11,418千円/年となっており、延床面積あたりの維持管理コストでは、平均が8,831円/㎡となっています。なお、御嵩公民館は平成24年度にトイレ改修、中公民館は平成23年度、平成24年度に駐車の整備等を行ったため、例年より支出が多くなっています。

延床面積あたりの維持管理コストを比較すると、最も低い伏見公民館(6,367 円/ m)と最も高い御嵩公民館(11,044 円/ m)では、約1.7 倍の差があります。

<sup>※</sup>各建物の耐用年数は、財務省令に基づく用途、構造別年数表に基づき設定しています。

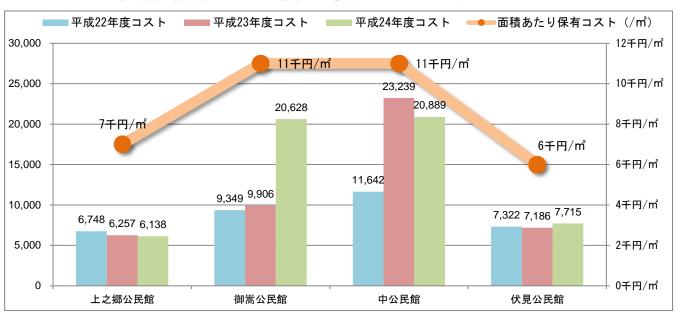
<sup>※</sup>耐用年数「公民館」: 鉄筋RC…50年、鉄骨造…41年

≪施設のコスト状況≫

施設名称	維持管理コスト	延床面積あたりの 維持管理コスト	利用者一人あたりコスト ※3ヵ年の平均
上之郷公民館	6,381 千円/年	7,305 円/㎡	961 円/人
御嵩公民館	13,294 千円/年	11,044 円/㎡	929 円/人
中公民館	18,590 千円/年	10,611 円/㎡	731 円/人
伏見公民館	7,408 千円/年	6,367 円/㎡	1,203 円/人
平均	11,418 千円/年	8,831 円/㎡	956 円/人

<sup>※</sup>コスト等は直近3ヵ年度の平均で算定します。

〇グラフ:各年度の維持管理コストの推移と面積あたりコストの比較



利用者一人当たりコストについては、全体平均で年間 956 円/人となっており、伏見公民館ではこの平均を大きく超える 1,203 円/人となっています。中公民館は最も少なく 731 円/人となっており、その差は約 1.6 倍となっています。

〇グラフ:総コストと利用者一人あたり総コストの比較



#### 4. 供給の状況

各公民館の直近(平成 24 年度)の年間の延べ利用者数は、6,605 人から 25,791 人とそれぞれの規模に応じて大きな差があります。過去 3 年間の利用者数の増減率を比較すると、 $1.8\% \sim 28.4\%$  とどの公民館も増加傾向にあります。

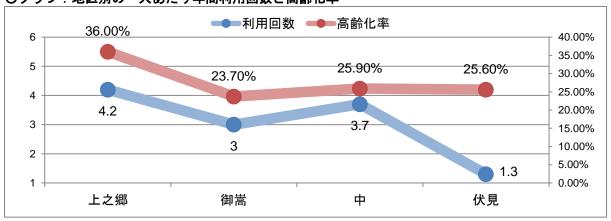
利用者実績数と地区人口から算定されるものを、その地区の人口一人あたり年間利用回数として比較しました。上之郷公民館は一人あたり年間 4.2 回の利用となっているのに対し、 伏見公民館では年間 1.3 回の利用となっています。なお、公民館の主な利用層と考えられる 高齢者の割合との比較も行っています。

≪公民館の利用状況≫

施設名称	H22 年度	H23 年度	H24 年度	地区人口	一人あたり 利用回数	高齢化率
上之郷公民館	6,197 人	6,121 人	7,958 人	1,907 人	4.2 回/人	36.0%
御嵩公民館	14,301 人	13,836 人	14,556 人	4,798 人	3.0 回/人	23.7%
中公民館	23,812 人	26,016 人	25,791 人	6,984 人	3.7 回/人	25.9%
伏見公民館	5,986 人	5,897 人	6,605 人	5,308 人	1.3 回/人	25.6%
			54,910 人	18,997 人	2.9 回/人	_

<sup>※</sup>地区人口及び高齢化率は平成26年1月1日現在の人口を基準としています。

# 〇グラフ:地区別の一人あたり年間利用回数と高齢化率



貸室の稼働率(提供可能な時間数に対する利用実績時間)を指標として比較を行いました。 貸室稼働率では、中公民館が12.8%ともっとも高く、その他は6.4%~7.8%とほぼ同水準の 稼働率となっています。

≪公民館の稼働状況≫

施設名称	貸室数	総利用時間	提供可能時間	稼働率
上之郷公民館	7室	1,668 時間	25,872 時間	6.4%
御嵩公民館	9 室	2,604 時間	33,264 時間	7.8%
中公民館	9室	4,244 時間	33,264 時間	12.8%
伏見公民館	8室	1,830 時間	25,872 時間	7.1%

<sup>※</sup>利用可能時間=平成 24 年度開館日数 308 日×1 日開館時間 12 時間×貸室数

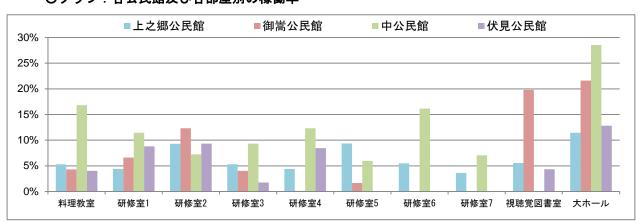
<sup>※</sup>利用者数は平成24年度分を採用しています。

<sup>※</sup>一人あたり利用回数は、年間利用者数÷地区人口としています。

#### H22 H23 H24 ━稼働率 40000 14.00% 12.80% 35000 12.00% 30000 10.00% 26016 25791 23812 7.80% 25000 7.10% 8.00% 6.40% 20000 6.00% 14301 13836 14556 15000 4.00% 7958 10000 6197 6121 6605 5986 5897 2.00% 5000 0 0.00% 御嵩 中 伏見 上之郷

# 〇グラフ:利用者数の推移と稼働率

貸室ごとの比較では、その公民館も大ホールが最も稼働率が高くなっています。研修室の 稼働状況はそれぞればらつきがあります。



○グラフ:各公民館及び各部屋別の稼働率

#### 5. 施設の配置状況

公民館のサービス供給エリアを各 4 地区、需要者を全年齢層としました。需要者一人当たり供給状況では、上之郷公民館が 1.74 と需給バランス平均の 1.0 と比べてもっとも高くなっており、その他の公民館はほぼ同水準の需給バランスとなっています。

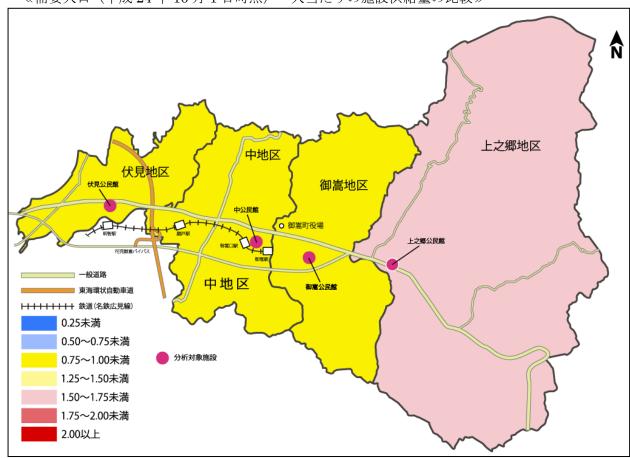
≪サービス供給エリア別の需要者数と需給バランス≫

○対象年齢:全年齢層 ○基準日:平成24年10月1日時点

○同一用途の平均値 4,992.54÷18,997=0.263

施設名称	地区	地区人口	延床面積					
上之郷公民館	上之郷	1,955 人	873.47 m²	1.74				
御嵩公民館	御嵩	4,710 人	1,203.79 m²	0.95				
中公民館	中	6,888 人	1,751.90 m²	0.95	算式 (面積÷各地区人口)÷0.27			
伏見公民館	伏見	5,281 人	1,163.38 m²	0.83				
		18,834 人	4,992.54 m²	1.00				

※需給バランス…各公民館の需給情報を『(施設の面積:需要人口):同一用途の平均値』で指標化しました。 平均が1.0となり、供給面積が多いと1.0以上、少ないと1.0未満の数値となります。



# ≪需要人口(平成24年10月1日時点)一人当たりの施設供給量の比較≫

※需給バランス…各公民館の需給情報を『(施設の面積÷需要人口)÷同一用途の平均値』で指標化しました。 平均が 1.0。供給面積が多いと 1.0 以上、少ないと 1.0 未満の数値となります。

また、需要人口の将来人口推計(※企画課による推計。別紙「人口将来推計資料」)では、 平成 24 年の 18,834 人から平成 42 年に 15,940 人ほどに減少すると見込まれます。

≪全体の需給バランスの算定≫

	平成 24 年	平成 32 年	平成 42 年
施設の総延床面積(A)		$4{,}992.54~\textrm{m}^{\textrm{2}}$	
全体需要人口 (B)	18,834 人	16,936 人	15,940 人
(A) ÷ (B)	0.27	0.28	0.31

	上之郷	873.47 m²
延床面	御嵩	1,203.79 m²
面積	中	1,751.90 m²
	伏見	1,163.38 m²

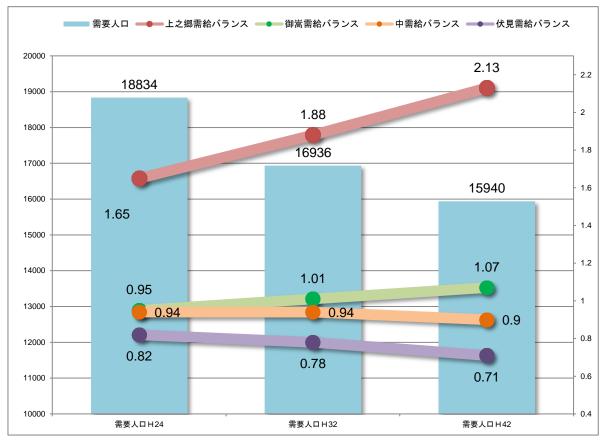
≪各公民館の需要人口と需給バランスの将来推計≫

	平 24 年度		平成 3	2 年度	平成 42 年度		
	人口	需給バランス	人口 (推計)	需給バランス	人口(推計)	需給バランス	
上之郷	1,955 人	1.65	1,662 人	1.88	1,321 人	2.13	
御嵩	4,710 人	0.95	4,238 人	1.01	3,627 人	1.07	
中	6,888 人	0.94	6,686 人	0.94	6,249 人	0.90	
伏見	5,281 人	0.82	5,348 人	0.78	5,261 人	0.71	
合計	18,997 人	_	16,936 人※	_	15,940 人※	_	

※推計の合計人数について、地区ごとと全体で補正係数が違うため、必ずしも合計は合致しません。

サービス供給エリア(各地区別)の将来推計から、御嵩公民館は(御嵩地区)は 0.95 から 1.07 に増加し、伏見公民館(伏見地区)は 0.82 から 0.71 に減少することが見込まれます。また上之郷公民館(上之郷地区)の需給バランスについては、1.65 から 2.13 へと他と比べて大きく増加することが見込まれます。

〇グラフ:将来人口推計予想と各地区の需給バランス予想



≪上之郷地区の需要人口と需給バランス≫

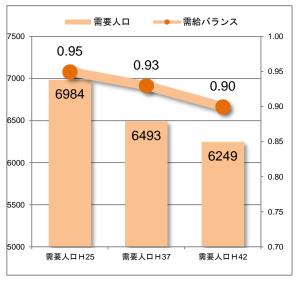


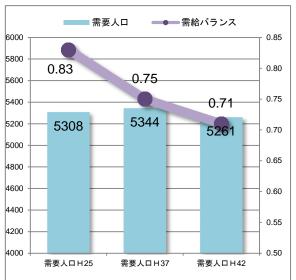
≪御嵩地区の需要人口と需給バランス≫



#### ≪中地区の需要人口と需給バランス≫

#### ≪伏見地区の需要人口と需給バランス≫





上記までの需給動向の推移から、全体的に需要人口に対して、現在の供給量がより余裕傾向になっていくことが想定されます。特に上之郷公民館(上之郷地区)については、よりいっそう供給量に余裕がでてくる見込みです。

なお、伏見地区については、他と地区と比べて人口の減少率は低くなっていますが、将来 的には減少する見込みとなっています。

#### 6. 現状と課題

#### ≪施設≫

全ての施設が、昭和 40 年代~50 年代に整備されており、全体の老朽化率は 73.0%と進行しています。ほとんどの公民館が今後約 10 年前後で耐用年数を迎える建物となっており、建物の更新やその優先順位を検討していく必要があります。

# ≪財務≫

利用者一人当たりの総コストでは、最大 1.6 倍の差が生じているなど、一人あたりで比較した供給量に格差が生じています。

#### ≪供給·需給≫

施設の利用者は、増加または横ばい傾向となっています。貸室の時間あたりの稼働率では  $6.4\%\sim12.8\%$ とどの公民館も 10%前後となっており、空き時間の有効利用や利用促進など 改善の必要があります。また更新、建替えの際には将来人口推計、利用状況等を鑑みた規模、 内容等を検討していく必要があります。

# 2-7 町営住宅

# 1. 施設の概要

町営住宅は、「御嵩町町営住宅条例」、「御嵩町公有財産及び債権の管理に関する規則」に基づいて、下記の6つの施設が設置され、町営住宅の提供に関する事業を行っています。(若宮住宅は御嵩町町営住宅条例によらず、公有財産として賃貸借していますが、ここでは町営住宅として取扱っています。)建物棟数は、229棟(残存戸数)、延床面積が8,655.41㎡となっています。この町営住宅のほとんどが昭和30年代から40年代に建てられています。

≪町	「堂	住自	<del>-</del>	睯	>>
// [		LL-: I		77'	//

施設名称	地区	所管課	延床面積	敷地面積	運営形態	設置根拠
宿住宅	上之郷	総務課	502.96 m²	5,454.0 m <sup>2</sup>	直営	御嵩町町営住宅条例
板良住宅	御嵩	総務課	5335.22 m²	34,878.45 m <sup>2</sup>	直営	御嵩町町営住宅条例
若宮住宅	御嵩	総務課	106.15 m²	334.75 m²	直営	御嵩町公有財産及び債権 の管理に関する規則
白山住宅	中	総務課	$729.02~\text{m}^2$	$7{,}442.7~\textrm{m}^{\textrm{2}}$	直営	御嵩町町営住宅条例
顔戸住宅	中	総務課	180.80 m²	1,9852 m²	直営	御嵩町町営住宅条例
高倉住宅	伏見	総務課	1801.26 m²	11,997.8 m²	直営	御嵩町町営住宅条例

# 2. 施設の状況

町営住宅の老朽化率は、平均 258.4%となっており、どの施設も耐用年数を大幅に経過している状況です。耐震診断は実施されていませんが、構造、経過年数から耐震性は低いものと考えられます。

#### ≪建物の状況≫

施設名称	現存戸数	延べ床面積	建築年度	老朽化率	経過年数	主体構造	耐震診断
宿住宅	16 戸	502.96 m²	1967 年	213.6%	47年	木造	未実施
板良住宅	131戸	5335.22 m²	1969年	132.4%	45年	鉄骨造	未実施
若宮住宅	2 戸	106.15 m²	1923 年	413.6%	91 年	木造	未実施
白山住宅	21 戸	729.02 m²	1951 年	286.4%	63年	木造	未実施
顔戸住宅	6戸	180.80 m²	1956 年	263.6%	58年	木造	未実施
高倉住宅	53 戸	1801.26 m²	1961 年	240.9%	53年	木造	未実施

<sup>※</sup>老朽化率とは、耐用年数に対して経過した年数の割合を表現したものです。耐用年数 50 年の建物が 40 年経過している場合は、80%となります。  $(40年 \div 50 年= 80\%)$ 

#### 3. 財務の状況

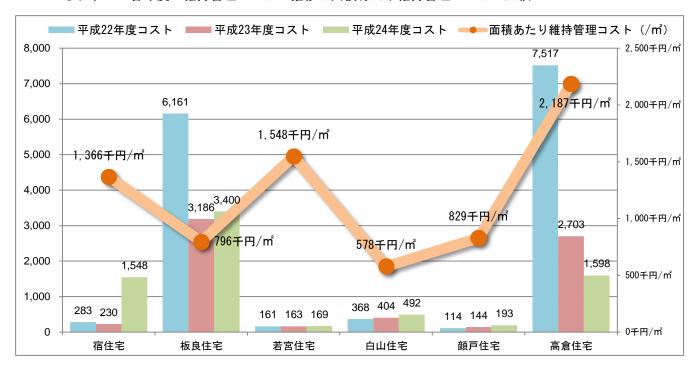
町営住宅の維持管理コストの過去 3 年間の推移と面積当たり維持管理コストを比較したグラフを下記に示しています。全体の平均維持管理コストは 1,786 千円/年となっており、面積あたりの維持管理コストでは、913 円/㎡となっています。なお、コストの中には管理にあたっている正職員二人分(住宅係)の人件費が含まれています。(※各年度の平均正職員人件費×各施設の入居戸数按分率×2人)

<sup>※</sup>各建物の耐用年数は、財務省令に基づく用途、構造別年数表に基づき設定しています。

<sup>※</sup>耐用年数「住宅」: 鉄骨造り…34年、木造…22年

面積当たりのコストでは、高倉住宅(2.187円/㎡)が最も高くなっています。

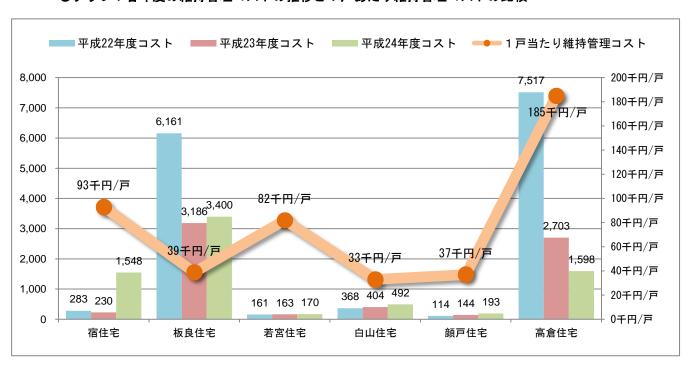
# 〇グラフ: 各年度の維持管理コストの推移と面積あたり維持管理コストの比較



一戸当たりの維持管理コスト  $(3 \pi + 2 \pi 2)$  については、平均が 78 千円/戸となっています。最も高いのは高倉住宅 (185 千円/戸)で、最も低いのが白山住宅 (33 千円/戸)となっており、その差は約 5.6 倍となっています。

なお、平成 22 年度は板良住宅、高倉住宅で屋根等の修繕工事、平成 23 年度には高倉住宅で住宅の取り壊しがあったため支出が多くなっています。

〇グラフ:各年度の維持管理コストの推移と1戸あたり維持管理コストの比較



# 4. 供給の状況

町営住宅の直近(平成 24 年度)の入居者数は、5 人から 245 人と各施設の規模に応じて大きく異なっています。入居率は、板良住宅が 94.7%となっており、その他の施設はすべて 100%の入居率となっています。

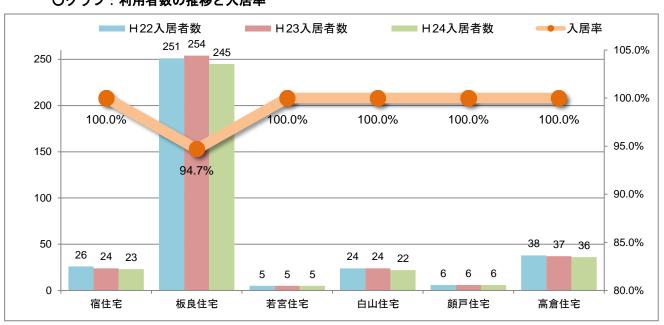
なお、宿住宅、板良住宅、白山住宅、顔戸住宅、高倉住宅は、老朽化した一部の空き家を 政策的な空き家として新規の入居募集を行っていません。入居率の算定からは政策的空き家 を除外しています。

≪町営住宅の利用状況≫
-------------

+た>□ なよ。		利用者数			入居戸数		提供戸数	入居率
施設名称	H22 年度	H23年度	H24 年度	H22年度	H23年度	H24 年度	(H24)	(H24)
宿住宅	26 人	24 人	23 人	10 戸	8戸	7戸	7戸	100%
板良住宅	251 人	254 人	245 人	111戸	110 戸	107 戸	113 戸	94.7%
若宮住宅	5人	5人	5人	2 戸	2戸	2 戸	2戸	100%
白山住宅	24 人	24 人	22 人	13 戸	13 戸	12 戸	12 戸	100%
顔戸住宅	6人	6人	6人	4戸	4戸	4戸	4戸	100%
高倉住宅	38 人	37 人	36 人	22 戸	21 戸	19戸	19戸	100%

- ※入居率は、平成24年度の提供戸数÷平成24年度入居戸数で算出。
- ※各施設の政策的空き家:宿住宅  $(9 \, \overline{P})$ 、板良住宅  $(18 \, \overline{P})$ 、若宮住宅  $(0 \, \overline{P})$ 、白山住宅  $(9 \, \overline{P})$ 、顔戸住宅  $(2 \, \overline{P})$ 、高倉住宅  $(34 \, \overline{P})$

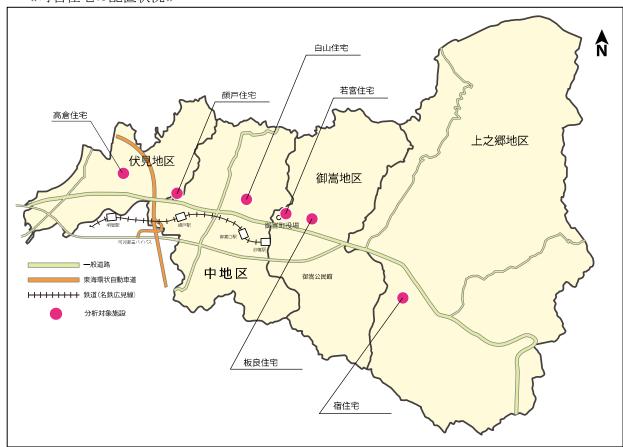
# 〇グラフ:利用者数の推移と入居率



#### 5. 施設の配置状況

町営住宅は、上之郷地区に1施設、御嵩地区に2施設、中地区に2施設、伏見地区に1施設が所在しています。なお、町営住宅については、供給エリアが全町、需要者が全町民で共通しているため、需要動向の分析は行っていません。

#### ≪町営住宅の配置状況≫



# 6. 現状と課題

#### ≪施設≫

ほとんど施設が昭和30年代から40年代に建設されているため、全体の老朽化率は258.4% とかなり老朽化が進んでいる状況です。また、住宅は公共施設の中でも住民の滞在時間が最 も長いものであり、耐震性が低い建物については、品質の向上を図っていく必要があります。

#### ≪財務≫

1 戸あたり維持管理コストでは高倉住宅(185 千円/戸)が全体平均(78 千円/戸)を大きく上回っています。全ての施設が耐用年数を大幅に経過しており、改築や建替えなどの財源を検討、またストックの有効活用等を検討していく必要があります。

なお、板良住宅以外の施設については、老朽化が進んでいるため今後新規の募集は行わないものとしています。

#### 《供給·需給》

全体の入居率は 90%を超えており、施設間のばらつきもありません。ただし、入居率が 100%のものが多いのは、これらの施設の老朽化が進んでいるおり、政策的に新規入居を控えているためと思われます。 なお、板良住宅以外は新規入居の募集は今後も行わないものとしています。

# 第3節

# 3-1 文化·観光·農業施設

# 1. 施設の概要

文化・観光・農業施設は以下の設置条例に基づき、図書館貸出サービスや各種の資料展示、 観光案内、地域農政の推進に関する拠点として整備されています。

なお、竹屋資料館は中山道みたけ館の構成施設の一つとなっていますが、本書では施設ご とに分けています。

≪文化・観光・農業施設一覧≫

施設名称	地区	所管課	延床面積	敷地面積	運営	設置根拠
中山道みたけ館	御嵩	生涯学習課	2,820.26 m <sup>2</sup>	4,096.65 m <sup>2</sup>	16.65 ㎡ 直営 中山道みたけ館設置条例	
竹屋資料館	御嵩	生涯学習課	484.87 m²	856.01 m²	直営	中山道みたけ館設置条例
御嶽宿わいわい館	御嵩	まちづくり課	130.83 m²	357.46 m²	直営	御嶽宿わいわい館の設置及び管理に関する条例
農業担い手センター	中	農林課	397.32 m²	646.72 m²	直営	御嵩町農業担い手センターの設置及び管理等に関する条例

<sup>※</sup>御嶽宿さんさん広場は対象外としています。

# 2. 施設の状況

各施設の老朽化率は、下記のとおりとなっています。竹屋資料館は 1877 年 (明治 10 年) 頃に建築されたと推定されており、平成 9 年に町の有形文化財として登録されました。平成 15 年に保存修復事業が実施されていますが、耐震補強等は実施されていません。

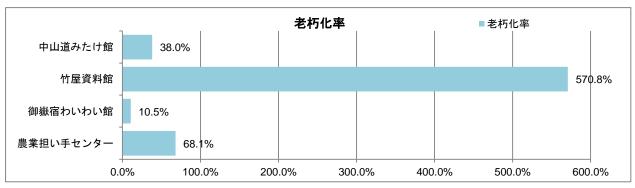
# ≪建物の状況≫

施設名称	延べ床面積	建築年度	老朽化率	経過年数	主体構造	耐震補強
中山道みたけ館	2,820.26 m <sup>2</sup>	1995年	38.0%	19年	鉄筋 RC	不要
竹屋資料館	484.87 m²	1877 年(推定)	570.8%	137年	木造	未実施
御嶽宿わいわい館	130.83 m²	2010年	10.5%	4年	鉄骨造	不要
農業担い手センター	397.32 m²	1982年	68.1%	32 年	鉄筋 RC	不要

<sup>※</sup>老朽化率とは、耐用年数に対して経過した年数の割合を表現したものです。耐用年数 50 年の建物が 40 年経過している場合は、80%となります。 (40 年÷50 年=80%)

<sup>※</sup>各建物の耐用年数は、財務省令に基づく用途、構造別年数表に基づき設定しています。

施設名称	建物用途	主体構造	財務省に基づく耐用年数	経過年数	老朽化率
中山道みたけ館	図書館	鉄筋 RC	50 年	19年	38.0%
竹屋資料館	展示室	木造	24 年	137年	570.8%
御嶽宿わいわい館	案内所	鉄骨造	38年	4年	10.5%
農業担い手センター	会議室•集会所	鉄筋 RC	47年	32 年	68.1%

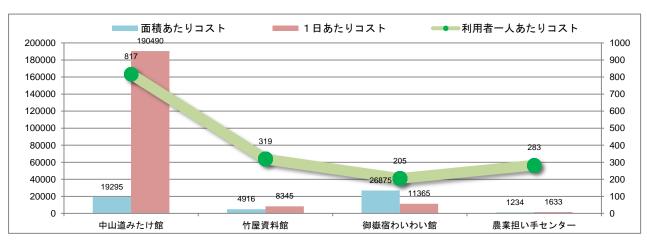


# 3. 財務の状況

文化・観光・農業施設の維持管理コストは、以下のようになっています。御嶽宿わいわい館は、面積あたりコストが最も高くなっており、利用者一人あたりのコストをみると中山道みたけ館が最も高く利用者一人あたり817円の維持管理コストとなっています。

施設名称	年間維持コスト	面積あたりコスト	1日あたりコスト	利用者一人あたりコスト
中山道みたけ館	54,417 千円/年	19,295 円/㎡	190,490 円/日	817 円/人
竹屋資料館	2,384 千円/年	4,916 円/㎡	8,345 円/日	319 円/人
御嶽宿わいわい館	3,516 千円/年	26,875 円/㎡	11,365 円/日	205 円/人
農業担い手センター	490 千円/年	1,234 円/㎡	1,633 円/日	283 円/人

#### 〇グラフ:各施設の維持管理コストの推移と面積あたり維持管理コストの比較



財務状況のうち、支出に関する内訳を下記に示しています。(平成 24 年度実績)人件費が 占める割合について、中山道みたけ館では 53.8%、御嶽宿わいわい館では 77.5%となってい ます。

+b=n, b =l=	人員配置状況			人員配置状況                        支出				1 /4 弗 11 表
施設名称	正職員	嘱託職員	日々雇用	合計	人件費	事業費	支出合計	人件費比率
中山道みたけ館	3 人	6人	5人	14 人	20,576 千円	17,666 千円	38,242 千円	53.8%
竹屋資料館	0人	0人	1人	1人	965 千円	1,250 千円	2,215 千円	43.6%
御嶽宿わいわい館	0人	1人	1人	2 人	2,510 千円	730 千円	3,240 千円	77.5%
農業担い手センター	0人	0人	0人	0人	0 円	468 千円	468 千円	0%

#### 〇グラフ: 各施設の支出内訳比率と人件費率 (平成 24 年度実績)



# 4. 供給の状況

農業担い手センター

文化・観光・農業施設の直近(平成 24 年度)の年間の延べ利用者数は、66,799 人(中山道みたけ館)から 1,852 人(農業担い手センター)となっています。過去 3 年間の利用者数の増減率では、農業担い手センターが 19.4%の増加、中山道みたけ館と御嶽宿わいわい館は 1.2~1.9%の微減、竹屋資料館は 17.4%の減少となっています。

過去3年間の利用者の推移と稼働率(定員の算出が困難なため、過去3年間の最大利用者 数を定員として稼働率を算出。)を比較しました。

平均 最大 利用者数 稼働率 施設名称 利用者数 利用者数  $(A) \div (B)$ H23年度 H22年度 H24 年度 (A) (B) 中山道みたけ館 67,634 人 65,443 人 66,799 人 66,625 人 67,634 人 98.5%竹屋資料館 8,373 人 7,255 人 6,912 人 7,513 人 8,373 人 89.7%御嶽宿わいわい館 17,025 人 17,693 人 16,695 人 17,138 人 17,693 人 96.9%

≪文化・観光・農業施設の利用状況≫

1,551 人

1,940 人

また、中山道みたけ館について、貸出図書数と来館者数は下記のとおりとなっています。利用者数 ( $\triangle 1.2\%$ ) と貸出図書数 ( $\triangle 13.8\%$ ) の減少率に大きく差があります。

1,852 人

1,781 人

1,940 人

91.8%

増減率 中山道みたけ館 H22年度 H23年度 H24年度 (H22 と H24 の比較) 67,634 人 利用者数 65,443 人 66,799 人 **▲**1.2% 貸出図書数 101,478 ⊞ 103,105 ∰ 87,504 ∰ **▲**13.8% 一人あたり貸出図書数 1.50 ∰ 1.58 冊 1.31 ∰ **▲**12.6%

≪中山道みたけ館の利用者数と貸出図書数≫

#### 〇グラフ:中山道みたけ館の利用者数と貸出図書数の推移



<sup>※</sup>稼働率は、3ヵ年の平均利用者数÷3ヵ年の最大利用者で算出。

#### 5. 施設の配置状況

文化・観光・農業施設は、御嵩町全域にサービスを供給しており、施設の配置状況は以下のとおりとなっています。

≪文化・観光・農業施設の配置状況≫



#### 6. 現状と課題

#### ≪施設≫

ほとんどの施設が昭和 60 年代以降に建設されており、新耐震基準で整備されています。農業担い手センターは老朽化率が 68.1%となっており、今後老朽化にともなう修繕費用などの確保、将来的な更新方法やその費用などの検討をしていく必要があります。また、竹屋資料館については、安全と文化財保護の観点からも耐震診断及び文化財価値に配慮した耐震補強等の対策が必要と考えられます。

#### ≪財務≫

中山道みたけ館は利用者一人あたり 817 円、1 日あたりでは 190 千円の維持管理コストとなっています。御嶽宿わいわい館では、観光客や来訪者へのおもてなし、案内業務などの施設目的から、人件費が支出の 77.5%を占めています。

#### ≪供給・需給≫

施設の利用者は減少傾向にあります。また中山道みたけ館では、来館者数の減少と比べて 貸出図書数の減少が顕著となっています。本町の人口も将来的に減少していくと見込まれて いることから、どの施設も町内はもとより広域的な利用促進を検討することや来館のための 施策に取り組んでいく必要があります。

# 3-2 スポーツ・レクリエーション施設施設

# 1. 施設の概要

スポーツ・レクリエーション施設(以下「スポーツ施設」)は、「御嵩町B&G海洋センターの設置及び管理運営に関する条例」、「御嵩町町民運動場設置条例」に基づいて7つの施設が設置されており、本書では一定規模の建物を有している2つの施設を対象としました。スポーツ施設では、町民の体育の向上及びレクリエーション活動の振興を図るための事業を行っています。

≪スポーツ施設一覧≫

施設名称	地区	所管課	延床面積	敷地面積	運営形態
御嵩町B&G海洋センター	御嵩	生涯学習課	2549.28 m²	$-m^2$	直営
綱木グランド管理棟	上之郷	生涯学習課	394.94 m²	5,148.83 m²	直営

※南山公園野球場、テニスコート、白山多目的グランド、顔戸グランド、伏見グランドは対象外としています。

#### 2. 施設の状況

スポーツ施設の老朽化率は、平均 58.9%となっており、新耐震基準となった昭和 60 年代 に整備されています。

≪建物の状況≫

施設名称	延べ床面積	建築年度	老朽化率	経過年数	主体構造	耐震診断
御嵩町B&G海洋センター	2549.28 m²	1985 年	61.7%	29 年	RC ブロック造	不要
綱木グランド管理棟	394.94 m²	1986年	56.0%	28年	RC ブロック造	不要

<sup>※</sup>老朽化率とは、耐用年数に対して経過した年数の割合を表現したものです。耐用年数 50年の建物が 40年経過している場合は、80%となります。 (40年 $\div$ 50年=80%)

### 3. 財務の状況

スポーツ施設の維持管理コストの過去3年間の推移のグラフを下記に示しています。 年間の平均維持管理コストは16,039千円/年となっており、延床面積当たりの維持管理コストは、平均6,908円/㎡となっています。

施設名称	年間維持コスト	面積あたりコスト	1日あたりコスト	利用者一人あたりコスト
御嵩町B&G海洋センター	31,503 千円/年	12,357 円/㎡	102,837 円/日	810 円/人
綱木グランド管理棟	576 千円/年	1,459 円/㎡	7,403 円/日	293 円/人
平均	16,039 千円/年	6,908 円/㎡	55,120 円/日	552 円/人

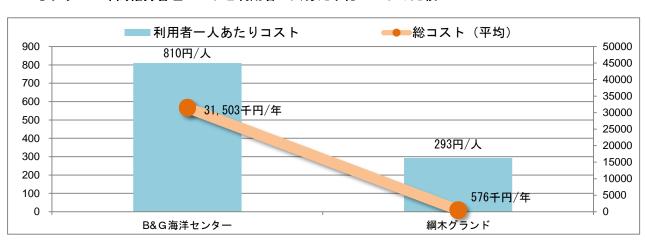
<sup>※</sup>各建物の耐用年数は、財務省令に基づく用途、構造別年数表に基づき設定しています。

<sup>※</sup>耐用年数「体育館」: RC ブロック…38 年

■■B&G海洋センター ━━綱木グランド管理棟 32000 590 31800 585 31825 31600 31705 584 580 31400 31200 575 31000 570 573 30800 30978 570 565 30600 30400 560 平成22年度 平成23年度 平成24年度

〇グラフ:各施設の維持管理コストの推移

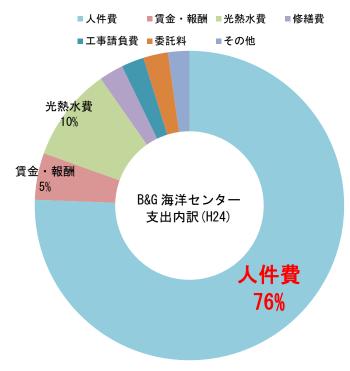
利用者一人あたりの維持管理コストについては、B&G 海洋センターが 810 円/人、綱木 グランド管理棟が 293 円/人となっています。



〇グラフ:年間維持管理コストと利用者一人あたり総コストの比較

なお、B&G海洋センターの支 出内訳をみてみると、76%を人 件費が占めており、賃金報酬と合 わせると、人件費関係で81%と なります。次に大きいのは光熱水 費(10%)となっています。

(支出内訳は平成24年度の数値を採用)



# 4. 供給の状況

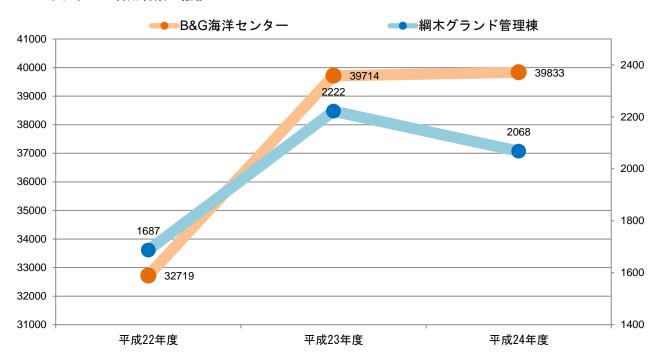
スポーツ施設の直近(平成 24 年度)の年間延べ利用者数は、B&G 海洋センターでは、39,833 人、綱木グランドでは 2,068 人となっています。また、過去 3 年間の利用者数の増減率を比較すると、B&G 海洋センターは 7.0%増、綱木グランド管理棟は 22.6%増となっています。過去 3 年間の利用者の推移と稼働率(定員の算出が困難なため、過去 3 年間の最大利用者数を定員として稼働率を算出)を比較しました。稼働率の平均は 93.7%となっています。

≪スポーツ施設の利用状況≫

₩-=n, <i>In TL</i>		利用者数		平均	最大	稼働率 (A) ÷ (B)	
施設名称	H22年度	H23年度	H24 年度	利用者数 (A)	利用者数 (B)		
B&G海洋センター	37,219 人	39,714 人	39,833 人	38,922 人	39,833 人	97.7%	
綱木グランド管理棟	1,687 人	2,222 人	2,068 人	1,992 人	2,222 人	89.7%	

※稼働率は、3ヵ年の平均利用者数÷3ヵ年の最大利用者で算出。

# 〇グラフ:利用者数の推移



# 5. 施設の配置状況

スポーツ施設は、御嵩町全域にサービスを供給しており、施設の配置状況は以下のとおりとなっています。またその他にもグランドや体育館、テニスコートなどが設置されています。

### ≪スポーツ施設の所在状況≫



#### 6. 現状と課題

#### ≪施設≫

どちらも昭和 60 年代に建設されており、老朽化 58.9%となっています。特に B&G 海洋センターについては、今後老朽化にともなう修繕費用などが発生すると考えれらます。

#### ≪財務≫

B&G 海洋センターは利用者一人あたり 810 円、1 日あたりでは 103 千円の維持管理コストとなっています。またその維持管理コストのうち約 80%が人件費に関わるものとなっています。今後、指定管理など具体的な検討を進めていくうえで、コスト状況の把握も重要になってきます。

#### 《供給·需給》

施設の利用者は横ばい、または微増傾向となっており、稼働率も93.7%と高い稼働率となっています。

ただし、本町の人口は減少傾向にあることから、現在設置しているスポーツ施設(今回対象外のグランド等)の規模の適正化を検討していくこと必要があると考えられます。

# 3-3 その他の供用施設

# 1. 施設の概要

その他の供用施設は以下の設置条例に基づき、整備されています。

希らり館は、社会福祉協議会の事務所として社会福祉法人御嵩町社会福祉協議会に無償貸与されています。あゆみ館では障がい者支援多機能型事業所としての事業を実施しており、社会福祉法人慈恵会が指定管理者となり管理運営を行っています。なお、本書では、本館と作業棟を分けて記載してあります。

≪その他供用施設一覧≫

施設名称	地区	所管課	延床面積	敷地面積	運営	設置根拠
希らり館	御嵩	総務課	333.04 m²	839.34 m²	直営	御嵩町公有財産及び債権の管理に関する規則
あゆみ館本館	中	福祉課	694.44 m²	$-m^2$	指定管理	御嵩町障害者支援多機能事業所の設置及び管理に関する条例
あゆみ館作業棟	中	福祉課	147.32 m²	$-m^2$	指定管理	御嵩町障害者支援多機能事業所の設置及び管理に関する条例
みたけ会館	御嵩	福祉課	214.10 m²	759.01 m²	直営	みたけ会館の設置及び管理に関する条例

# 2. 施設の状況

各施設の老朽化率は、下記のとおりとなっており、すべての施設が新耐震基準にて整備されています。みたけ会館については、すでに耐用年数を迎えており、耐震診断、耐震補強についても未実施となっています。

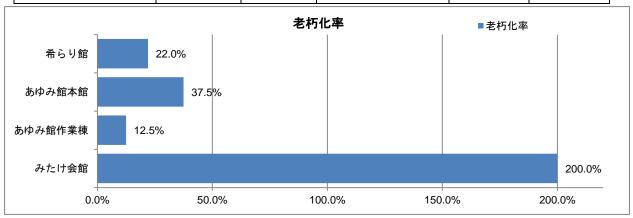
#### ≪建物の状況≫

施設名称	延べ床面積	建築年度	老朽化率	経過年数	主体構造	耐震診断
希らり館	333.04 m²	2003年	22.0%	11 年	鉄筋 RC	不要
あゆみ館本館	694.44 m²	2005年	37.5%	9年	木造	不要
あゆみ館作業棟	147.32 m²	2011年	12.5%	3年	鉄骨造	不要
みたけ会館	214.10 m²	1966年	200.0%	48年	木造	未実施

<sup>※</sup>老朽化率とは、耐用年数に対して経過した年数の割合を表現したものです。耐用年数 50 年の建物が 40 年経過している場合は、80%となります。 (40 年 $\div$  50 年= 80%)

<sup>※</sup>各建物の耐用年数は、財務省令に基づく用途、構造別年数表に基づき設定しています。

施設名称	建物用途	主体構造	財務省に基づく耐用年数	経過年数	老朽化率
希らり館	庁舎	鉄筋 RC	50 年	11 年	22.0%
あゆみ館本館	作業所	木造	24 年	9年	37.5%
あゆみ館作業棟	作業所	鉄骨造	38年	3年	12.5%
みたけ会館	集会所	木造	24 年	48年	200.0%



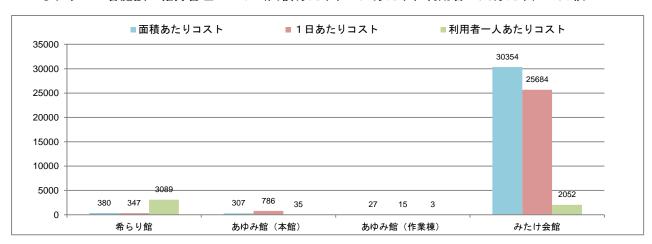
# 3. 財務の状況

その他の供用施設の維持管理コストは、以下のようになっています。あゆみ館は、指定管理者による管理運営を行っており、施設に係る支出はあまり発生していません。希らり館については、借り受け者である御嵩町社会福祉協議会にて管理運営にかかる費用は負担していますが、修繕、改修等の費用は所有者である町が負担することとなっています。

施設名称	平均年間維持コスト	面積あたりコスト	平均1日あたりコスト	利用者一人あたりコスト
希らり館	127 千円/年	380 円/㎡	347 円/日	3,089 円/人※
あゆみ館本館	213 千円/年	307 円/㎡	786 円/日	35 円/人
あゆみ館作業棟	4 千円/年	27 円/㎡	15 円/日	3 円/人
みたけ会館	6,499 千円/年	30,354 円/㎡	25,684 円/日	2,052 円/人

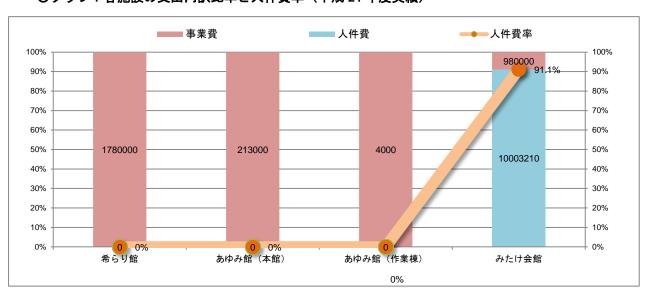
<sup>※</sup>希らり館については、職員一人あたりの維持管理コストとしています。

〇グラフ:各施設の維持管理コスト(面積あたり、1日あたり、利用者一人あたり)の比較



みたけ会館については、支出のうち人件費が占める割合が約 91%となっています。なお、 みたけ会館の人件費については、各年度の平均人件費を用いています。また、各施設の減価 償却費相当分については除いています。

〇グラフ: 各施設の支出内訳比率と人件費率 (平成 24 年度実績)



# 4. 供給の状況

その他供用施設の直近3ヵ年の年間利用者数は、下表のとおりとなっています。なお、希らり館では職員ひとり当たりのスペース利用率、あゆみ館では定員あたりの稼働率、みたけ会館では増減率で利用状況を表しています。

≪その他供用施設の利用状況≫

	×	利用者数 ※希らり館は職員数	<b>女</b>	平成 24 年度実績		
施設名称	名称 H22 年度 H23 年度 H24 年度		一人あたり スペース利用率	定員あたり 稼働率	増減率 (H22→H24)	
希らり館	44 人	39 人	41 人	8.1 ㎡/人	_	_
あゆみ館 (本館)	6,870 人	5,840 人	5,657 人	_	76.70/	_
あゆみ館 (作業棟)	_	1,308 人	1,810 人	_	76.7%	_
みたけ会館	3,336 人	3,233 人	2,964 人	_	_	<b>▲</b> 11.2%

※稼働率について…あゆみ館の本館、作業棟でそれぞれ利用者数を表していますが、稼働率については、全体定員 35 人をもとに本館、作業棟の利用者数を合算して算出しています。数値は平成 24 年度実績を採用。

# 5. 施設の配置状況

その他供用施設は、御嵩町全域にサービスを供給しており、施設の配置状況は以下のとおりとなっています。

#### ≪その他供用施設の所在状況≫



# 6. 現状と課題

#### ≪施設≫

希らり館及びあゆみ館は比較的新しい施設であり、新耐震基準で整備されています。みたけ会館は耐用年数をすでに超過しており、老朽化率が 200.0%となっています。また耐震診断、耐震化も未実施となっているため、早急に今後の更新の是非や対応策を検討する必要があります。

# ≪財務≫

あゆみ館は、指定管理者により運営を行っています。指定管理料は発生していません。希らり館についても、施設に関する光熱水費は借り受け者が支払をしています。両施設とも無償貸与となっており、使用料収入などは見込んでいません。みたけ会館は、事業にかかる費用のうち約91%を人件費が占めています。

#### 《供給·需給》

施設の利用者は横ばいまたは減少傾向にあります。今後は、人口規模も縮小傾向とみられることから、より効率的な運営が求められます。

# 3-4 遊休公共施設

# 1. 施設の概要

供用がされていないとされる遊休公共施設は、旧長楽荘と旧楪の家があり、どちらも御嵩 町公有財産及び債権の管理に関する規則に基づいて管理されています。

旧長楽荘は、平成 11 年 (1999 年) まで養護老人ホームとして老人福祉に関するサービスを実施していましたが、同年 11 月に井尻地内にさわやか長楽荘が建設され、同時にその運営・経営を社会福祉法人慈恵会に民間委譲されたことにより、その役目を終えています。以降は、町のイベント機材や屋外用備品の格納場所として活用されています。

旧楪の家は、元々は教員住宅だったものを平成 15 年 (2003 年) から重度心身障がい者通 所施設として自主運営団体に無償貸与し利用されてきました。平成 17 年 (2005 年) に中地 区に整備された知的障がい者通所授産施設「あゆみ館」が整備されたことから、供用が廃止 されました。

# ≪遊休公共施設一覧≫

施設名称	地区	所管課	延床面積	敷地面積	運営	設置根拠
旧長楽荘	中	総務課	978.61 m²	6,180.09 m <sup>2</sup>	直営	御嵩町公有財産及び債権の管理に関する規則
旧楪の家	伏見	総務課	79.3 m²	173.03 m²	直営	御嵩町公有財産及び債権の管理に関する規則

#### 2. 施設の状況

各施設の老朽化率は、旧長楽荘が135.3%、旧楪の家が183.3%となっており、かなり老朽化が進行している状況です。どちらも旧耐震基準で建設されており、耐震補強等は実施されていません。

なお、旧長楽荘については構造が不明であったため、鉄骨造りと仮定して老朽化率を求めています。

#### ≪建物の状況≫

施設名称	延べ床面積	建築年度	老朽化率	経過年数	主体構造	耐震診断・耐震補強
旧長楽荘	978.61 m²	1968 年	135.3%	46年	不明 ※鉄骨造と仮定	未実施
旧楪の家	79.3 m²	1970年	183.3%	44年	木造	未実施

<sup>※</sup>老朽化率とは、耐用年数に対して経過した年数の割合を表現したものです。耐用年数 50 年の建物が 40 年経過している場合は、80.0%となります。(40 年÷50 年=80%)

<sup>※</sup>各建物の耐用年数は、財務省令に基づく用途、構造別年数表に基づき設定しています。

施設名称	建物用途	主体構造	財務省に基づく耐用年数	経過年数	老朽化率
旧長楽荘	宿舎・寮舎	鉄骨造 (仮定)	34 年	46年	135.3%
旧楪の家	作業所	木造	24 年	44年	183.3%

#### 3. 財務の状況

旧長楽荘は、進入路用地賃借料が毎年 246 千円発生しています。その他は特にありません。 旧楪の家については、維持管理にかかるコストは発生していません。

# 4. 施設の配置状況

遊休公共施設の所在状況は以下のとおりとなっています。

# ≪遊休公共施設の所在状況≫



# 5. 現状と課題

# ≪施設≫

両施設とも耐用年数をすでに超過しており、老朽化がかなり進行していると言えます。

旧楪の家は、近隣に小学校や住宅等があることに加え、通学路に面していることから、住 民の安全確保等の対策を検討するとともに、両施設について事前防災・防犯の観点からも今 後の管理方針や維持の是非について検討していく必要があります。

※旧長楽荘には、身寄りのない被保護者の方のものと思われる遺骨や遺影等が 20~30 体保管してある建物があります。民間委譲の際にも民間事業者に引き取られず、そのまま町がお預かりしてある状態と思われます。今後は、これら遺骨等の取扱いについても検討が必要です。

# ≪財務≫

旧長楽荘は、毎年施設への進入路用地賃借料が246千円発生しています。旧楪の家の維持管理コストについては、直近3ヵ年間では生じていません。

# 御嵩町公共施設マネジメント報告書

発行:御嵩町 平成26年10月

企画・編集:御嵩町総務部企画課